

観光に関するアンケート 結果報告書

目 次

はじめに	1
【1】 調査の概要と回答者の属性	2
【2】 観光の実績について	3
【3】 観光の目的について	17
【4】 観光立国を目指して	21
【5】 観光の促進	31
【6】 自由記述	39

2004年11月

財団法人 経済広報センター

はじめに

経済広報センターは、広く社会の声を聴くため、全国の様々な職種、世代で構成される「社会広聴会員(4,942人)」を組織しております。毎年4～5回、経済・社会問題など折々のテーマについて社会広聴会員を対象にアンケート調査を行い、その結果を公表しております。

今回は「観光」をテーマに、「観光の目的」「観光立国」「観光の促進」などについて調査しました。

調査からは、観光を今後一層充実していきたいとの意向が高いこと、また、観光は「子供の教育」、「地域の活性化」、「国際交流」などの面からも有効であると考えられていることが確認できました。

アジア諸国からの観光客の促進策として、観光ビザの解禁支持が反対を大きく上回っております。また、国内のハッピーマンデー制度は観光の面からは拡大を望む声は少ないなどの結果が明らかになりました。

今回の「観光に関するアンケート」が、今後わが国の観光問題を考える一助になれば幸いです。

財団法人経済広報センター

【 1 】 調査の概要と回答者の属性

調査の概要

- (1) 調査名称 : 観光に関するアンケート
- (2) 調査対象 : 財団法人経済広報センターに登録している社会広聴会員 4,942人
- (3) 調査方法 : 郵送またはインターネットによる回答選択方式および自由記述方式
- (4) 調査期間 : 2004年9月28日～10月15日
- (5) 有効回答 : 3,653人 (73.9%)

回答者の属性

* 小数点第2位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

性別

単位: 上段 / 人 下段 / %

合計	男性	女性	無回答
3,653	1,413	2,234	6
100%	38.7%	61.2%	0.2%

年齢層

29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答
165	660	1,115	742	969	2
4.5%	18.1%	30.5%	20.3%	26.5%	0.1%

職業

会社員	団体職員	公務員	会社員・団体職員・ 公務員 小計
1,090	96	99	1,285
29.8%	2.6%	2.7%	35.2%

会社役員	団体役員	会社役員・団体役員 小計
118	40	158
3.2%	1.1%	4.3%

自営業	自由業	自営業・ 自由業 小計
132	131	263
3.6%	3.6%	7.2%

パートタイム・ アルバイト	専業主婦
541	795
14.8%	21.8%

無職	学生	その他	無職・学生・ その他 小計
399	35	169	603
10.9%	1.0%	4.6%	16.5%

無回答
8
0.2%

18歳以下の子供の有無

いる	いない	無回答
1,545	2,093	15
42.3%	57.3%	0.4%

【 2 】 「観光の実績について」

(1) 昨年 1 年間に国内の観光にどのくらい行きましたか。

【全員に質問（有効回答数：3,648人）】

< 年代別 >

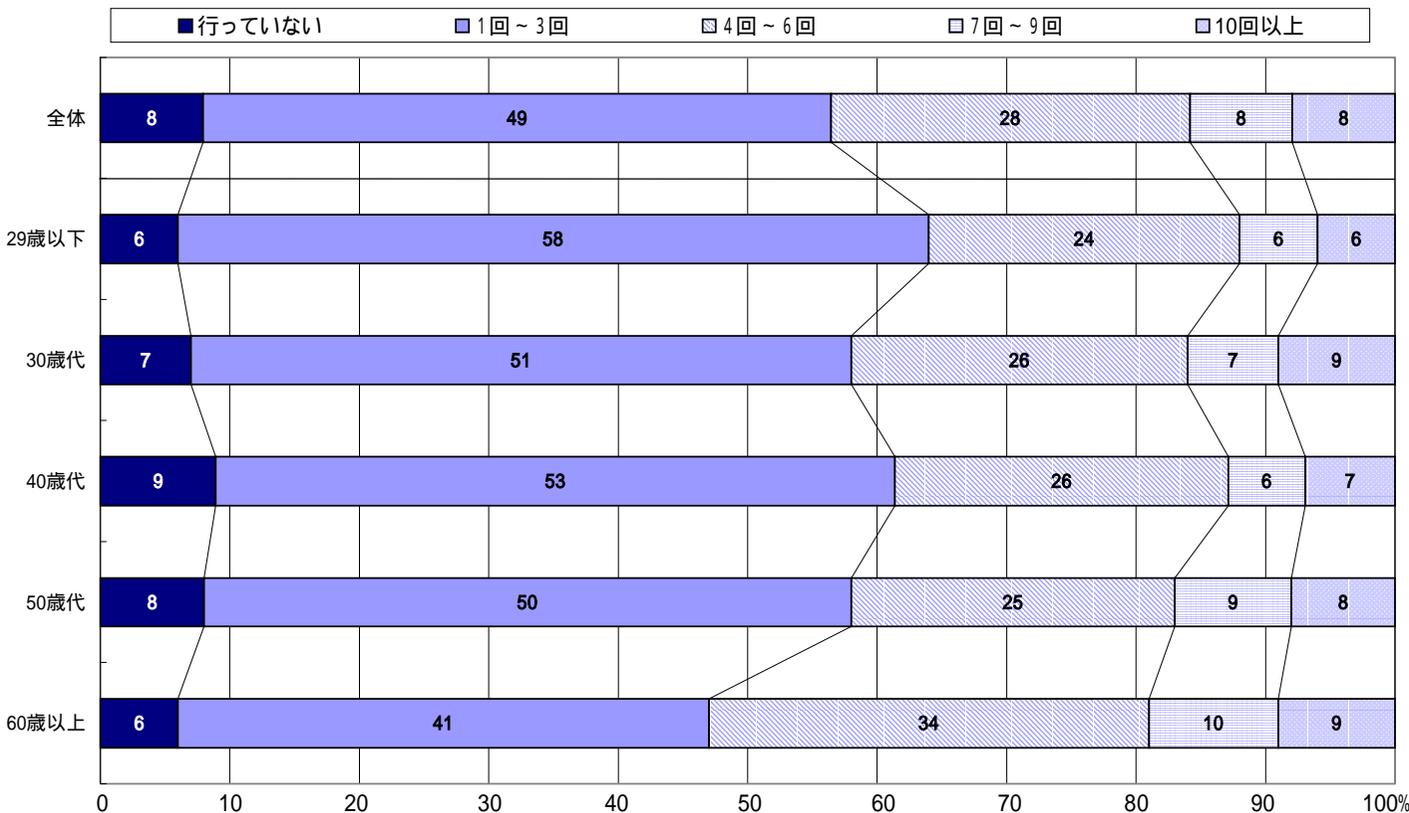
国内観光は 1 年間で 1 回 ~ 3 回が 49%

国内観光は、1年間に1回～3回が49%で最も割合が高かった。4回以上行った人の割合は44%で、1回～3回の割合より5ポイント低い。

60歳以上では、4回以上が53%で、全体の44%を上回った。

29歳以下は、他の年代より回数が少なく、3回以下が64%だった。

年代別



* 小数点第 1 位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

(1) 昨年 1 年間に国内の観光にどのくらい行きましたか。

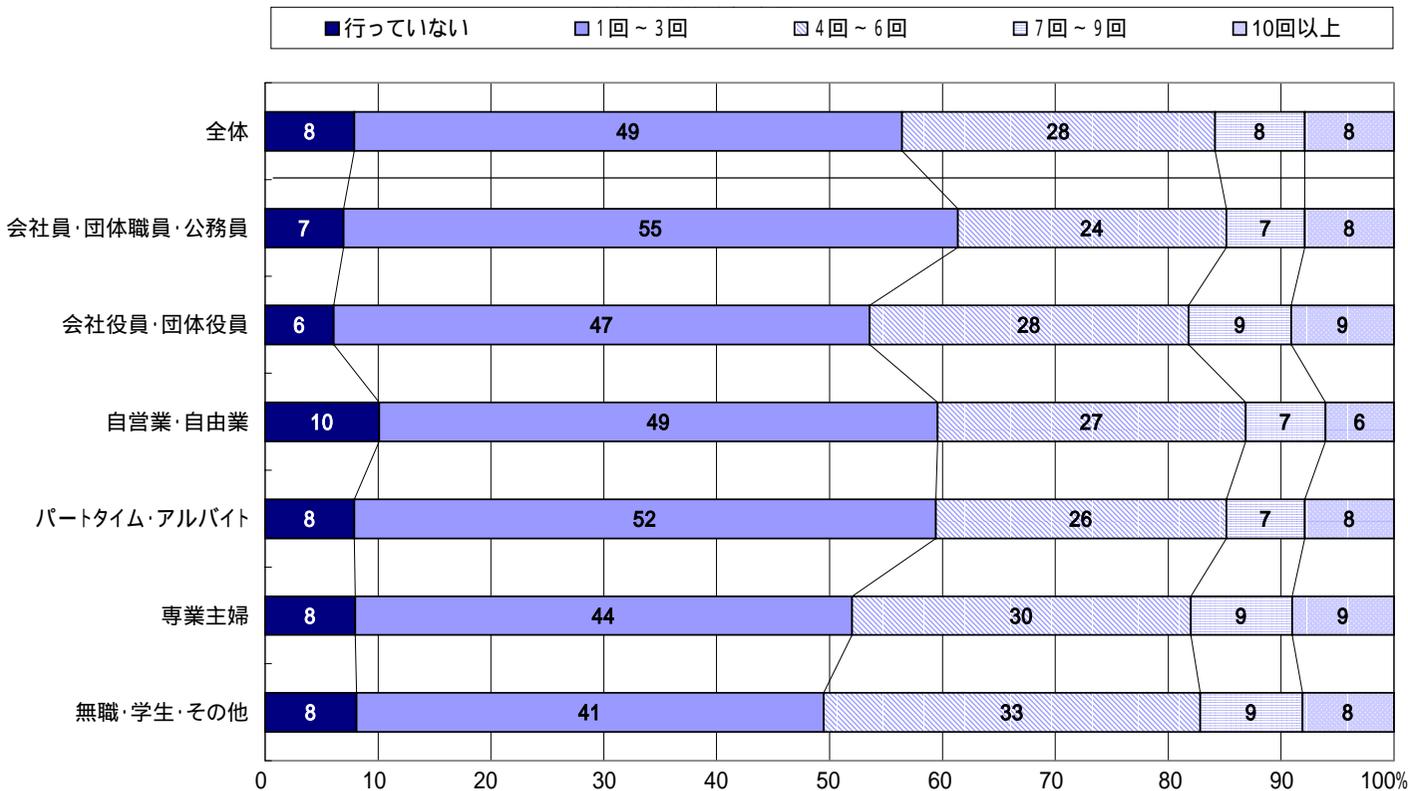
【全員に質問（有効回答数：3,648人）】

< 職業別 >

職業別では、「無職・学生・その他」が国内観光の回数が多く、4回以上が50%だった。次いで、「専業主婦」が48%だった。

「会社員・団体職員・公務員」と「自営業・自由業」、「パートタイム・アルバイト」は、他の職業より国内観光の回数は少なかった。

職業別



* 小数点第 1 位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

(1) 昨年 1 年間に国内の観光にどのくらい行きましたか。

【全員に質問（有効回答数：3,648人）】

< 18歳以下の子供の有無別 >

子供がいる人は、子供がいない人より観光回数が少なく、3回以下の割合が63%だった。

18歳以下の子供の有無別

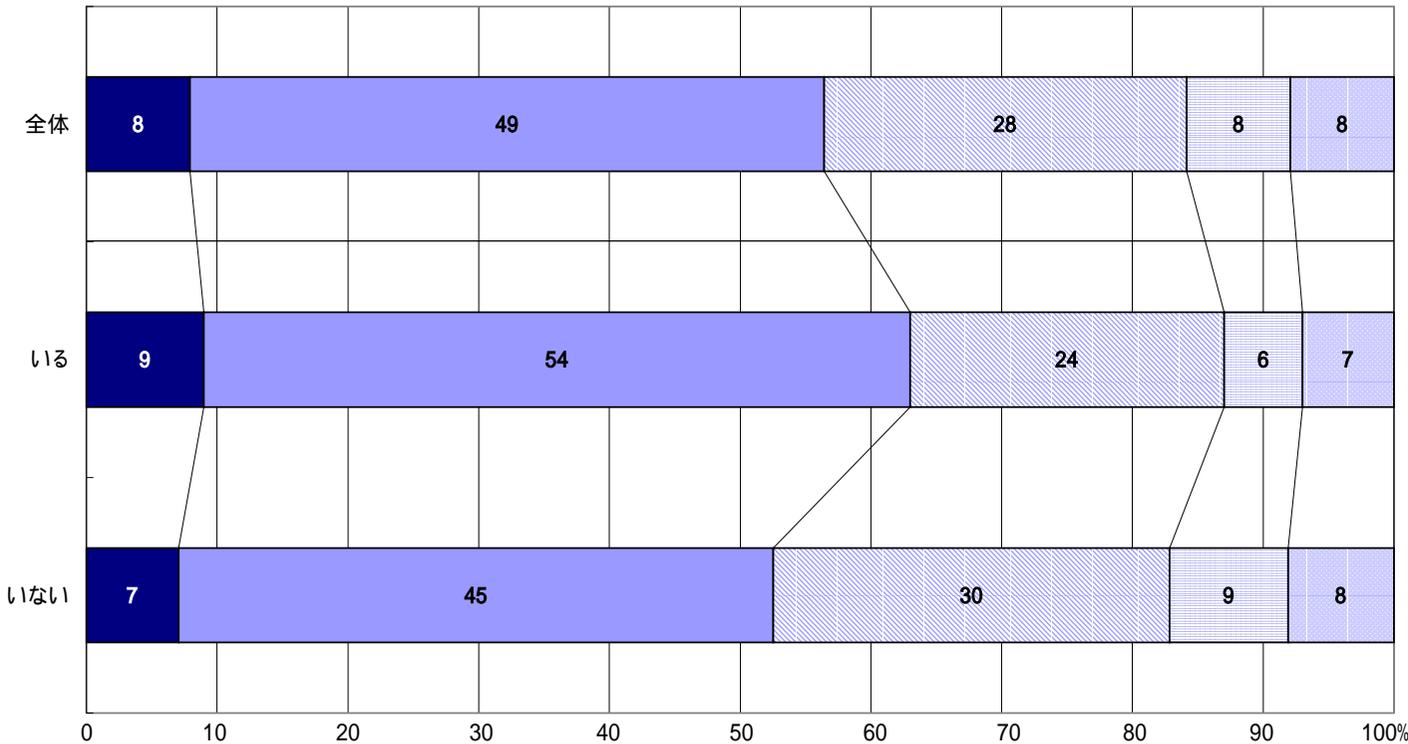
■行っていない

■ 1回～3回

■ 4回～6回

■ 7回～9回

■ 10回以上



* 小数点第 1 位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

(2) 昨年 1 年間に海外の観光にどのくらい行きましたか。

【全員に質問（有効回答数：3,636人）】

< 年代別 >

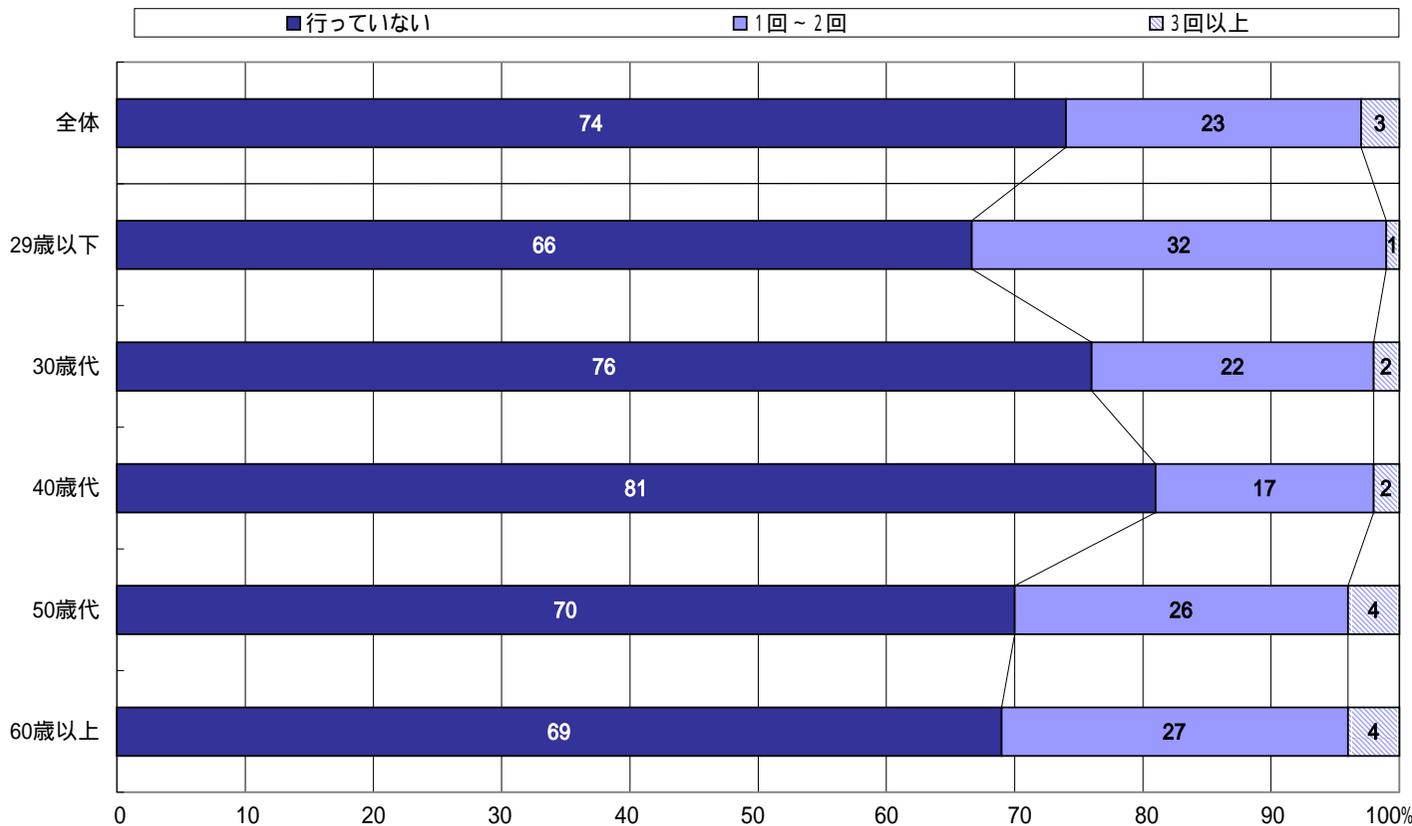
昨年 1 年間で海外観光経験率は26%

全体では、昨年1年間に海外観光に行った人は26%だった。

年代別では、40歳代が他の年代と比べ低く、19%だった。次いで30歳代が24%だった。

29歳以下は、国内観光の回数は他の年代より少ないが、海外観光の回数は他の年代より多く、1回以上行った人が33%だった。

年代別



* 小数点第 1 位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

(2) 昨年 1 年間に海外の観光にどのくらい行きましたか。

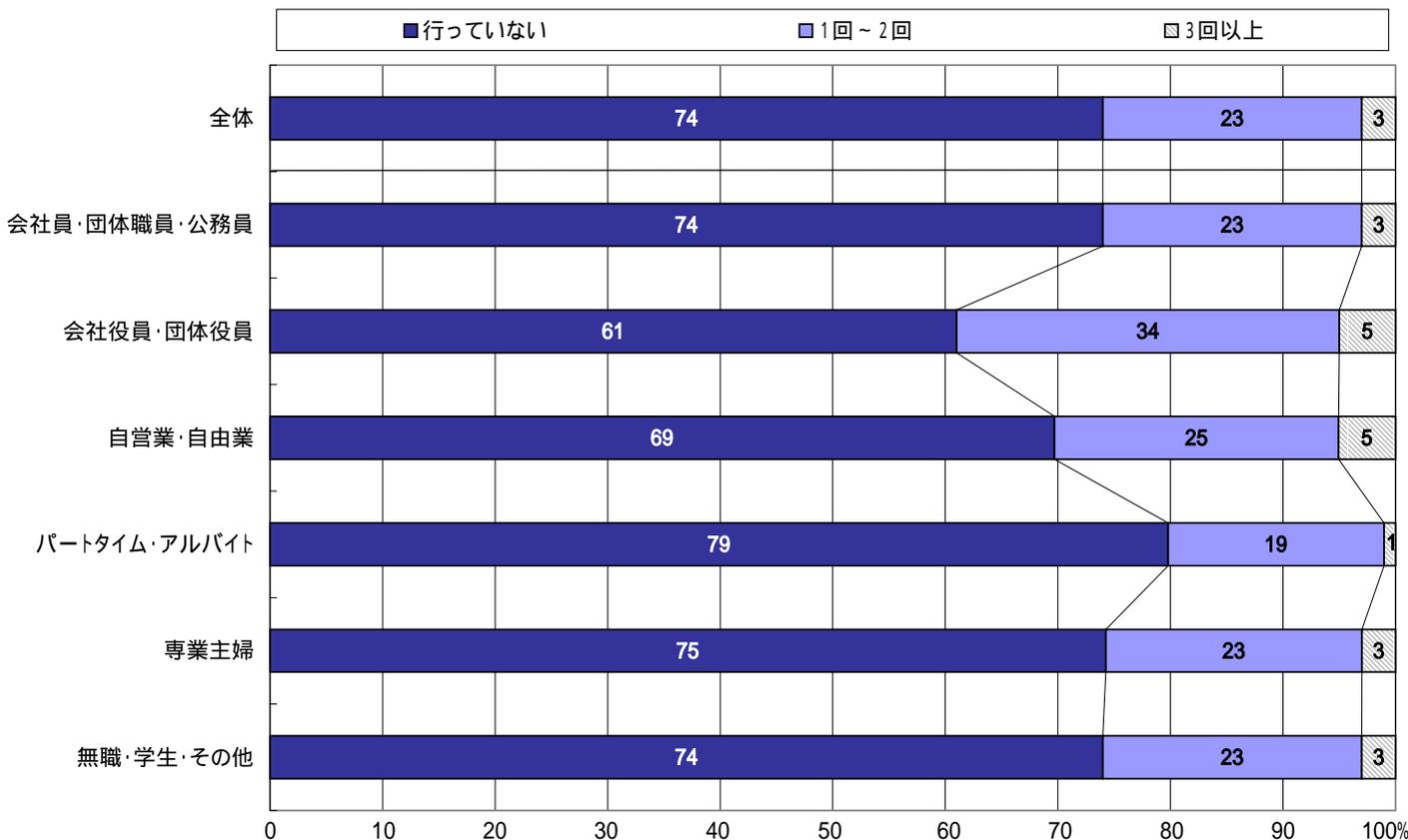
【全員に質問（有効回答数：3,636人）】

< 職業別 >

職業別では、パートタイム・アルバイトが海外観光に行った人の割合が低かった(20%)。

会社役員・団体役員は、他の職業と比べ海外観光の回数が多く、1回以上行った人の割合が39%だった。

職業別



* 小数点第 1 位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

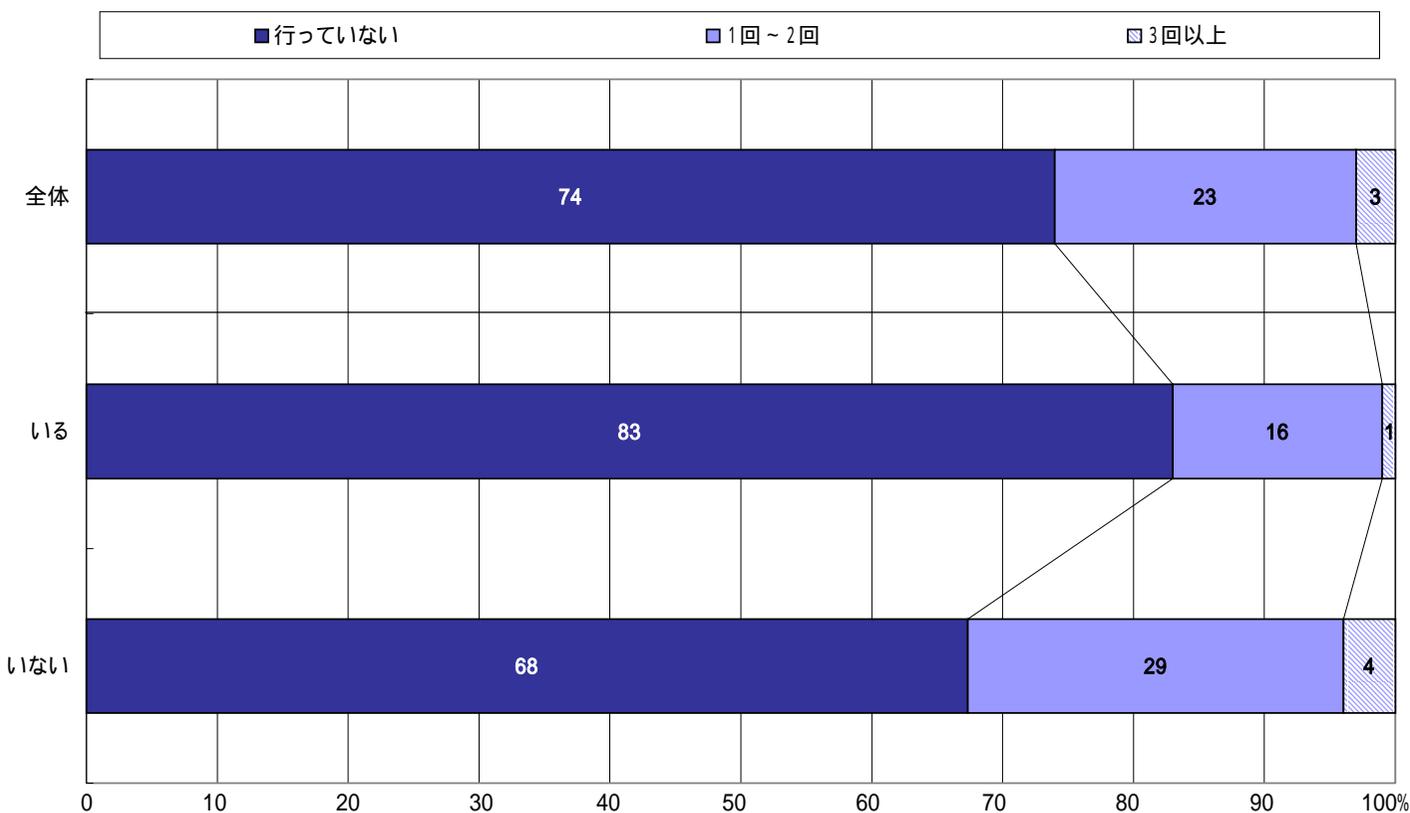
(2) 昨年1年間に海外の観光にどのくらい行きましたか。

【全員に質問（有効回答数：3,636人）】

< 18歳以下の子供の有無別 >

子供のいない人の昨年1年間に海外に行った割合は33%、子供のいる人は17%で、子供のいない人の半分となっている。

18歳以下の子供の有無別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

(3) 昨年 1 年間で国内の観光に費やした日数はどのくらいですか。

【国内観光に行ったと回答した人（有効回答数：3,286人）】

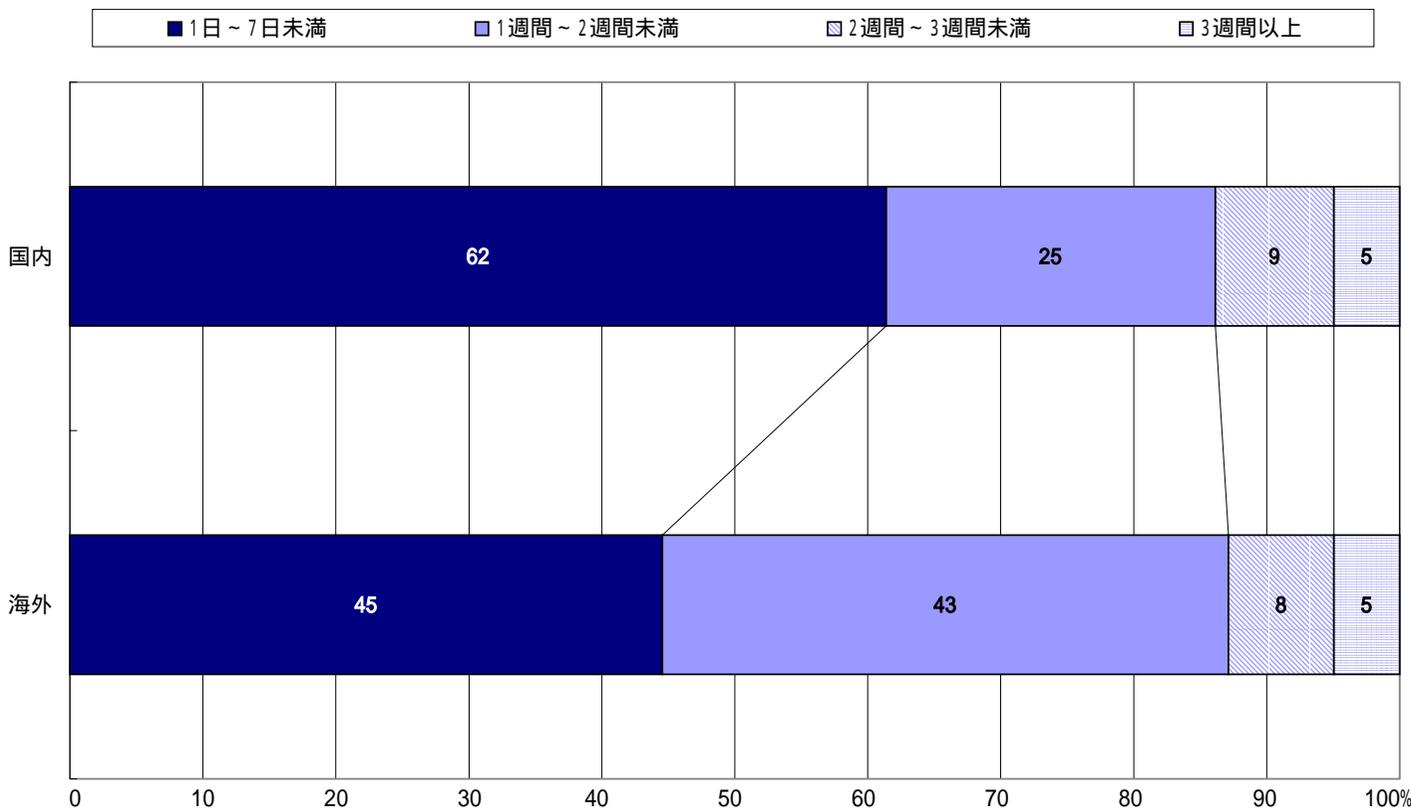
(4) 昨年 1 年間で海外の観光に費やした日数はどのくらいですか。

【海外観光に行ったと回答した人（有効回答数：931人）】

1 週間以上滞在は国内が39%、海外が56%

観光に費やした日数が1週間未満と回答した割合は、国内が62%だった。

海外は、1週間未満と1週間～2週間の割合がほぼ同じだった(それぞれ45%と43%)。



* 小数点第 1 位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

(3) 昨年 1 年間で国内の観光に費やした日数はどのくらいですか。

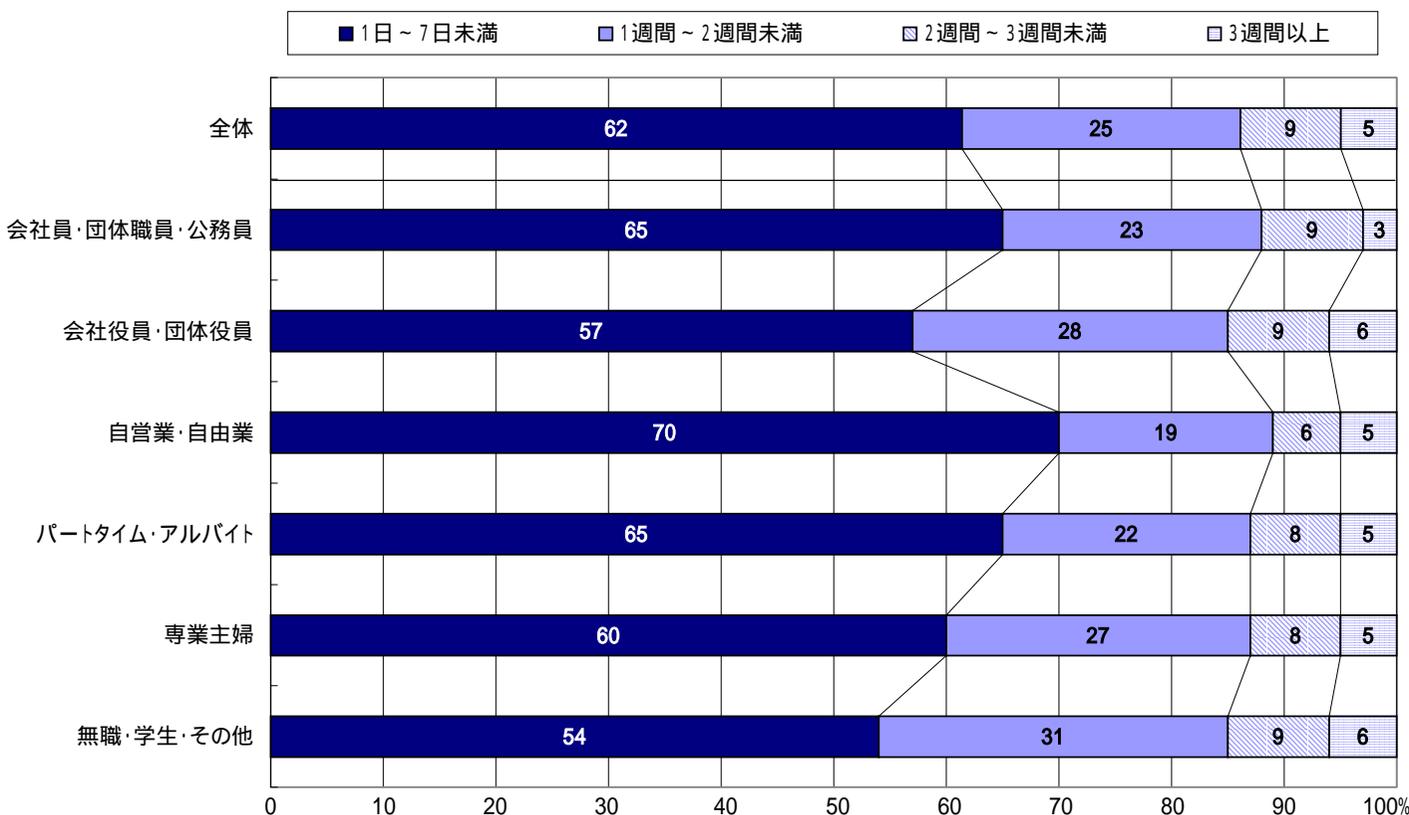
【国内観光に行ったと回答した人（有効回答数：3,286人）】

< 職業別 >

国内観光の滞在期間を職業別で見ると、「無職・学生・その他」が1週間以上と回答した割合が他の職業と比べて高く(46%)、次いで、「会社役員・団体役員」(43%)、「専業主婦」(40%)の順だった。

「自営業・自由業」は、1週間以上の回答割合が30%で、他の職業と比べ低い。

職業別



* 小数点第 1 位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

(3) 昨年 1 年間で国内の観光に費やした日数はどのくらいですか。

【国内観光に行ったと回答した人（有効回答数：3,286人）】

< 18歳以下の子供の有無別 >

国内観光の滞在期間は、子供のいない人が1週間以上と回答した割合が43%で、子供のいる人の回答割合(33%)を10ポイント上回っていた。

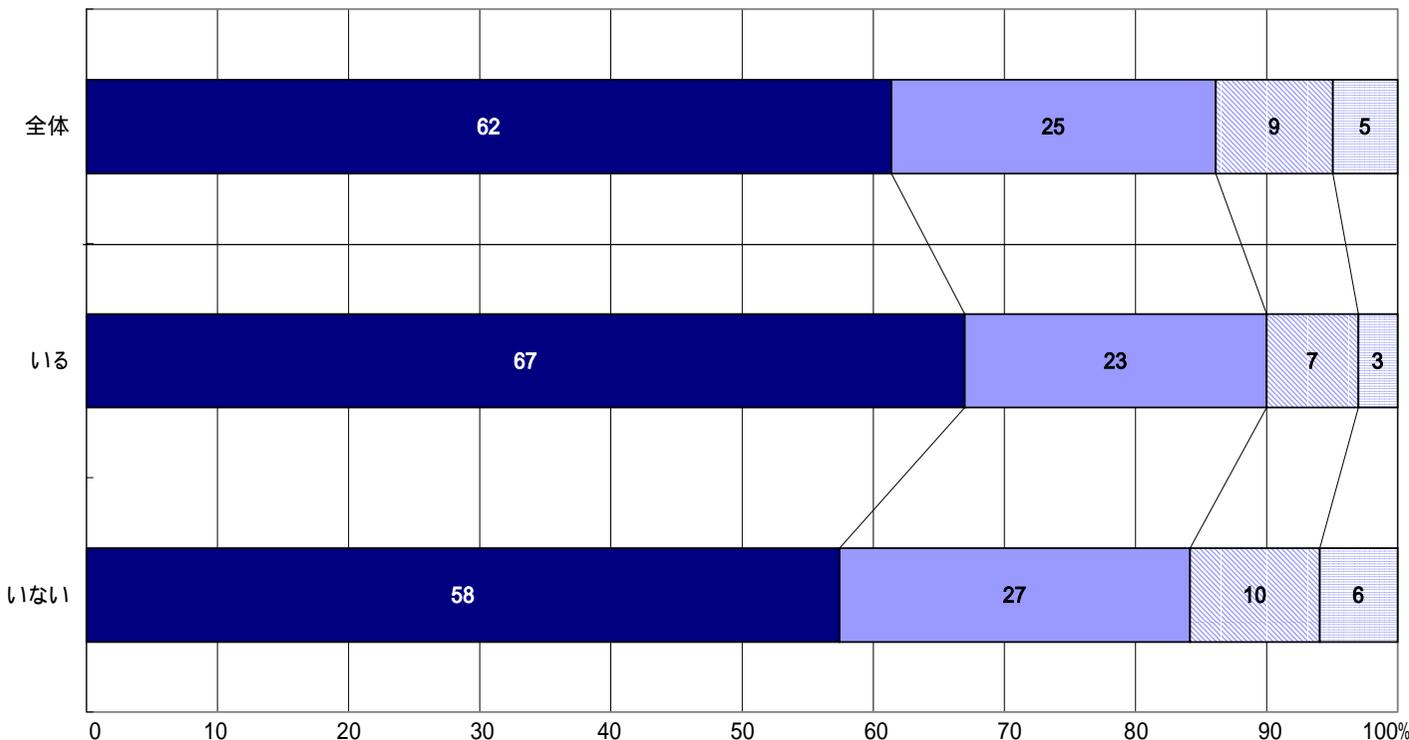
18歳以下の子供の有無別

■ 1日～7日未満

■ 1週間～2週間未満

■ 2週間～3週間未満

■ 3週間以上



* 小数点第 1 位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

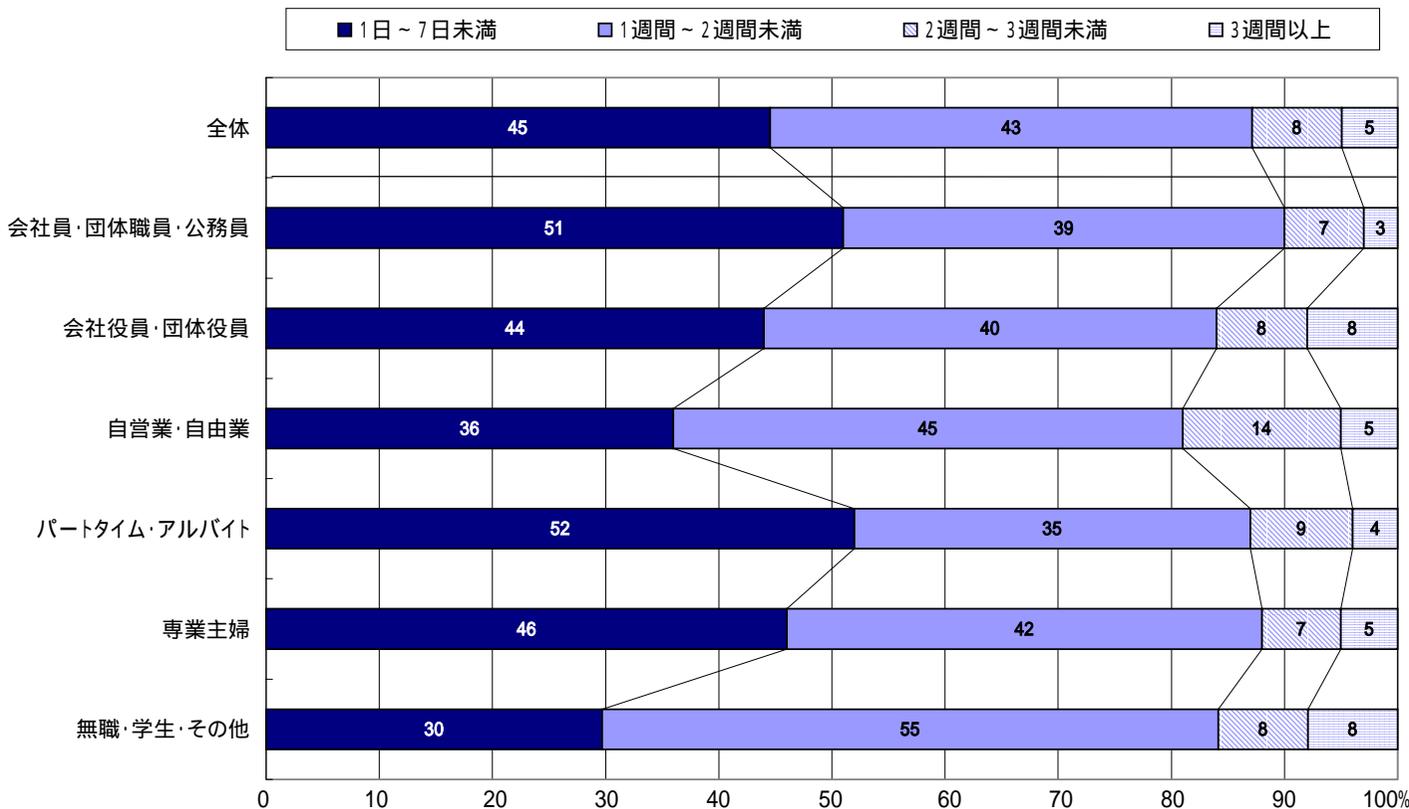
(4) 昨年 1 年間で海外の観光に費やした日数はどのくらいですか。

【海外観光に行ったと回答した人（有効回答数：931人）】

< 職業別 >

海外観光の滞在期間を職業別で見ると、1週間以上の滞在は「無職・学生・その他」が71%と高く、次いで「自営業・自由業」が64%だった。逆に、「パートタイム・アルバイト」と「会社員・団体職員・公務員」は、それぞれ48%、49%と低かった。

職業別



* 小数点第 1 位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

(4) 昨年 1 年間で海外の観光に費やした日数はどのくらいですか。

【海外観光に行ったと回答した人（有効回答数：931人）】

< 18歳以下の子供の有無別 >

海外観光の滞在期間は、子供のいない人が1週間以上と回答した割合が高く、61%だった。子供のいる人の回答割合(42%)と比べ19ポイント高い。

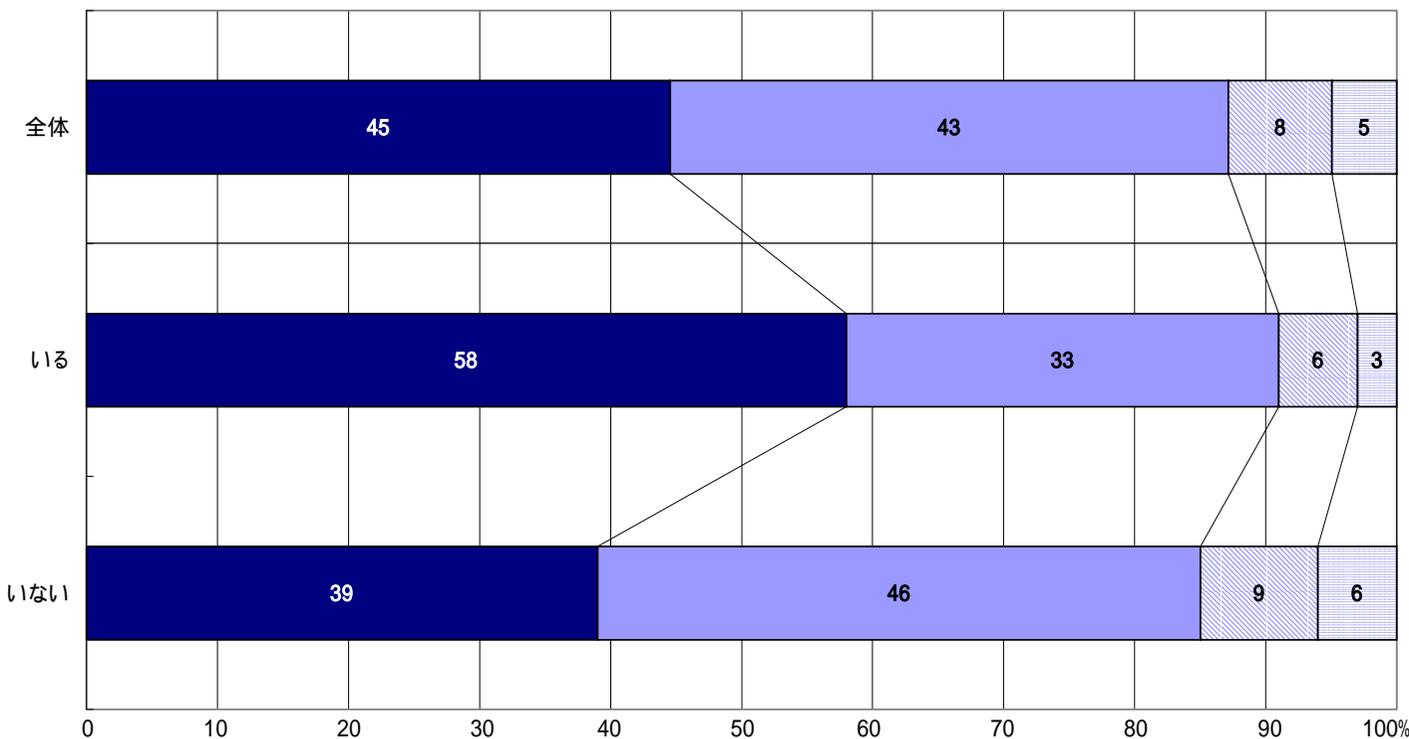
18歳以下の子供の有無別

■ 1日～7日未満

■ 1週間～2週間未満

■ 2週間～3週間未満

■ 3週間以上



* 小数点第 1 位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

(5) 昨年 1 年間で、国内、海外合わせてあなたが観光に費やした金額はどのくらいですか。(ご家族で行かれた場合でもあなたお一人分の相当額)

【国内又は海外の観光に行ったと回答した人(有効回答数:3,314人)】

<年代別>

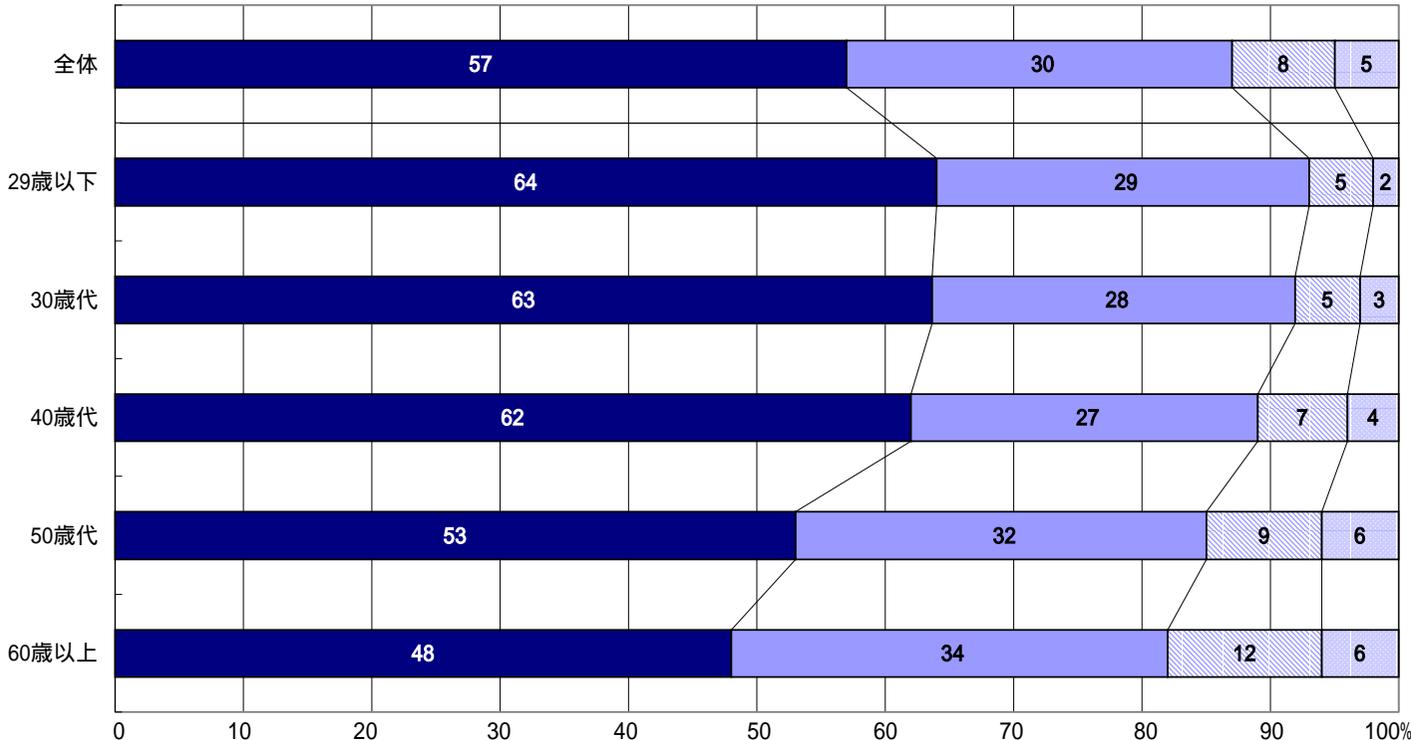
60歳以上の約 2 割は 1 年間で50万円以上

全体では、一人当たり20万円未満と回答した割合が57%と高かった。

年代が高くなるに伴い、観光に費やす金額が増加している。「50万円以上」との回答が、29歳以下では7%であるのに対し、60歳以上では18%であった。

年代別

■ 20万円未満 ■ 20万円以上～50万円未満 ■ 50万円以上～80万円未満 □ 80万円以上



* 小数点第 1 位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

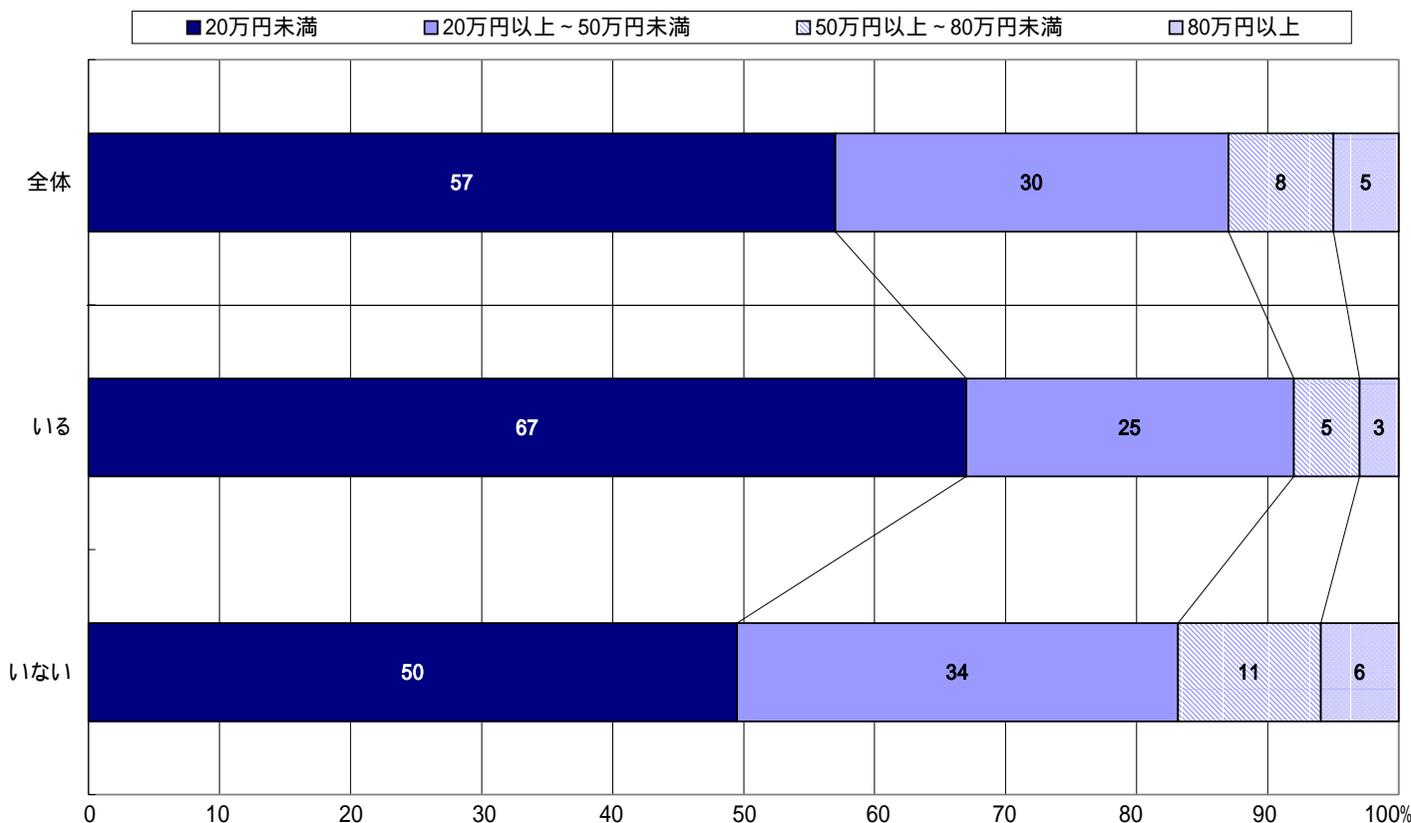
(5) 昨年1年間で、国内、海外合わせてあなたが観光に費やした金額はどのくらいですか。(ご家族で行かれた場合でもあなたお一人分の相当額)

【国内または海外の観光に行ったと回答した人(有効回答数:3,314人)】

< 18歳以下の子供の有無別 >

子供のいる人は、昨年1年間で観光に費やした一人当たりの金額が20万円以下と回答した割合が67%で、子供のいない人と比べ17ポイント高かった。

18歳以下の子供の有無別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 2 】 「観光の実績について」

(6) 余暇の過ごし方に、より一層観光を増やしたいと思いませんか。

【全員に質問（有効回答数：3,630人）】

< 年代別 >

より一層観光を増やしたい 80%

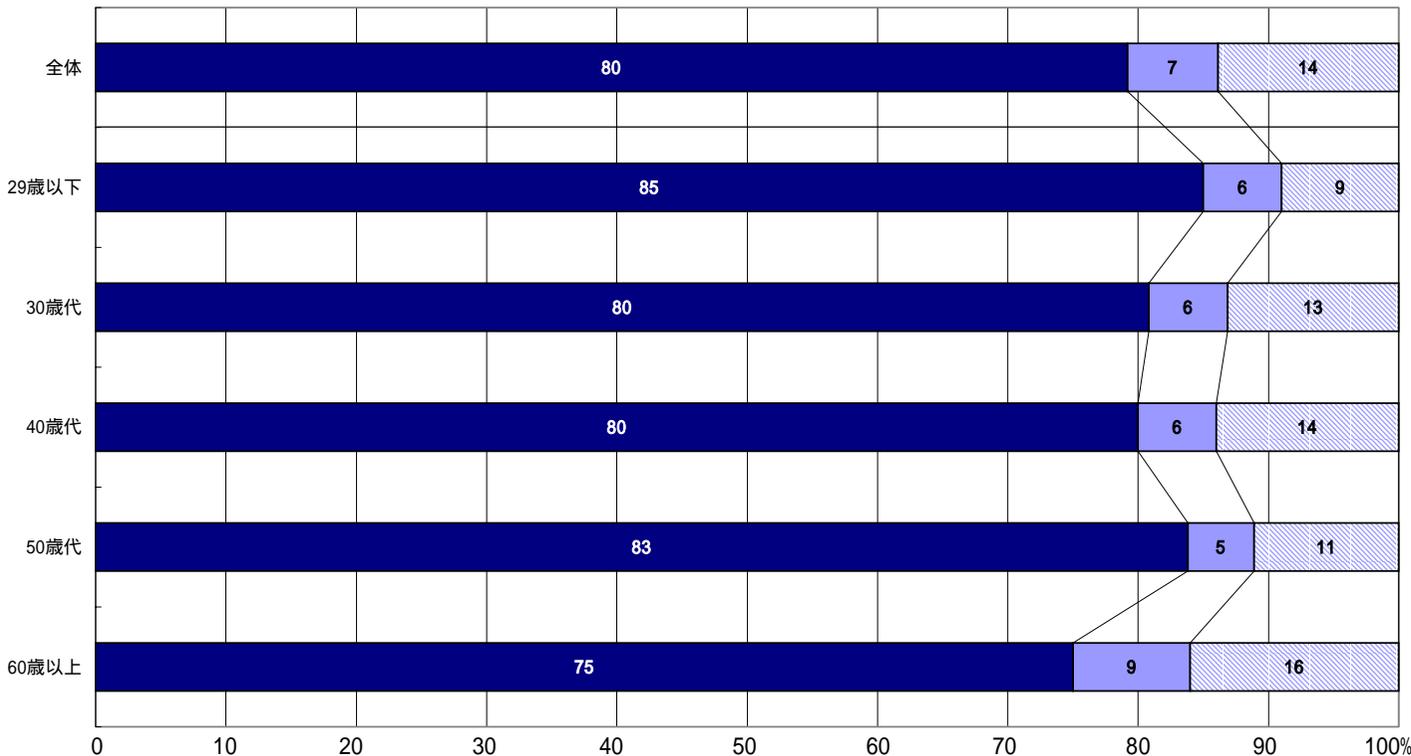
「増やしたいと思う」と回答した割合が80%と高かった。

年代別

■ 増やしたいと思う

□ 増やしたいとは思わない

▨ どちらでもない/わからない



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 3 】 「観光の目的について」

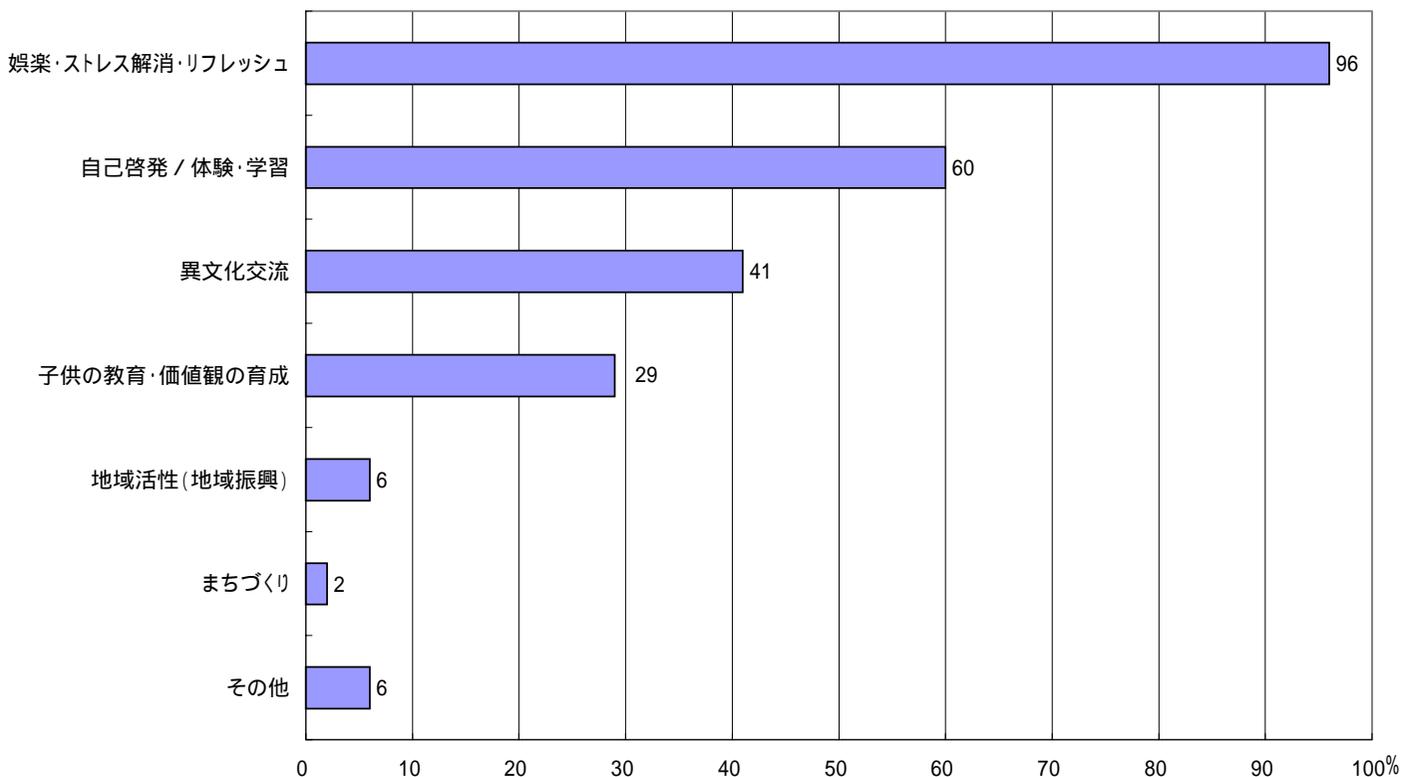
(7) あなたが「観光」をする目的は何ですか。

【全員に質問（有効回答数：3,653人）】

娯楽・ストレス解消・リフレッシュが96%

全体では、観光をする目的は「娯楽・ストレス解消・リフレッシュ」と回答した割合が最も高く96%だった。次いで、「自己啓発／体験・学習」が60%、「異文化交流」が41%だった。

「地域活性(地域振興)」、「まちづくり」と回答した割合は低く、それぞれ6%と2%だった。



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 3 】 「観光の目的について」

(7) あなたが「観光」をする目的は何ですか。

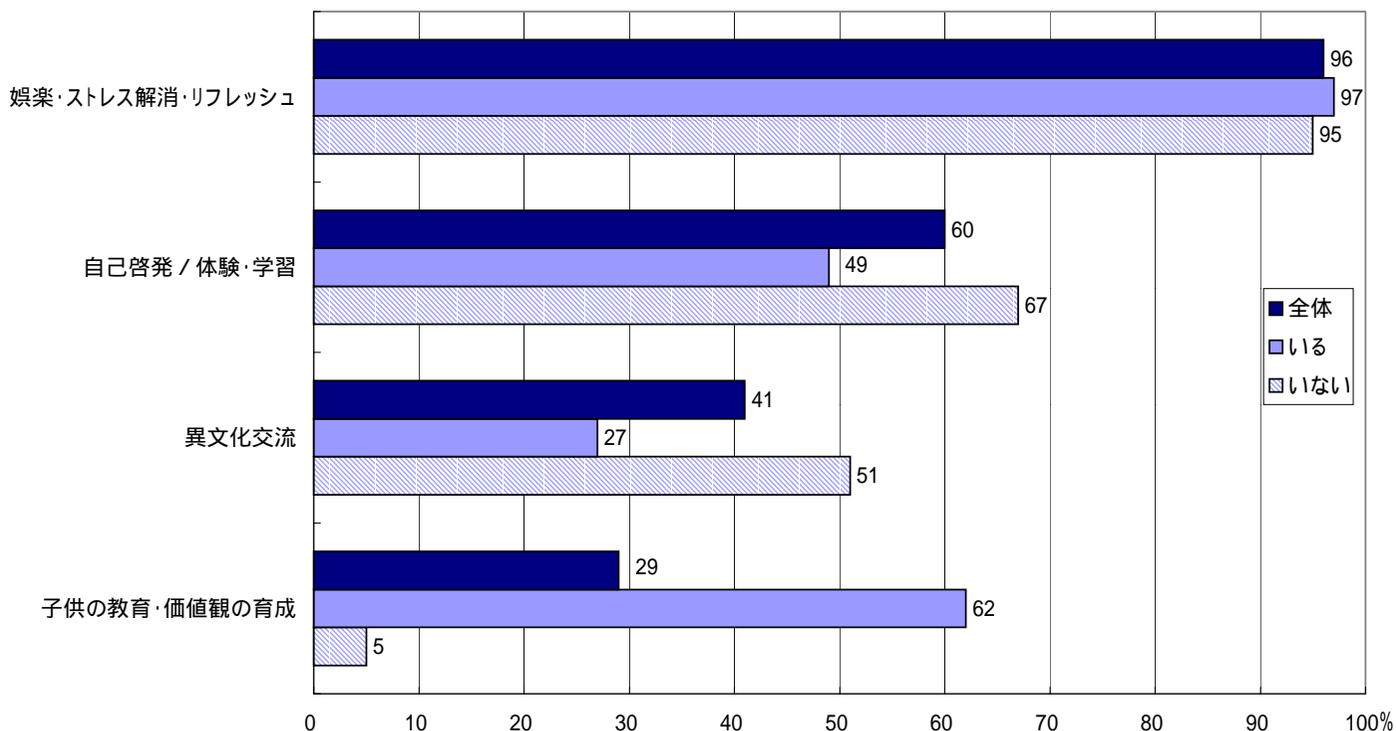
【全員に質問（有効回答数：3,653人）】

< 18歳以下の子供の有無別 >

子供の有無にかかわらず、「娯楽・ストレス解消・リフレッシュ」との回答が最も多かったが、それ以外の回答では子供の有無によって回答に違いがみられた。

子供のいる人は、「子供の教育・価値観の育成」と回答した割合が62%と高く、子供のいない人は、「自己啓発／体験・学習」「異文化交流」と回答した割合が高かった。

18歳以下の子供の有無別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 3 】 「観光の目的について」

(7) あなたが「観光」をする目的は何ですか。

その他(自由記述)

友人との交流。
景色を楽しむ。
気温差（寒い時に暖かいところへ）。
人との出会い。
体力づくり。
趣味（自転車長距離ツーリング）。
写真撮影。
ボランティア。
観光ボランティアとしての基礎勉強。
家族全員でのコミュニケーション。
家族として、日常と違う時間を共有。
家族の思い出づくり。
夫婦のコミュニケーション。
親孝行。
文化交流に役立つ。
博物館巡り。
定年後の設計のひとつ。
地元の食事。
地域を代表するイベントへの参加。
世界遺産巡り。
古跡・史跡探訪。
語学研修。
外国の友人との友好関係増進。
旧友との交流。
外国旅行で書物（英語）の購入。
買物。
流行など社会現象の観察と取材。
感動を得るため。
非日常の醍醐味。
旅行した土地の文化・名産などを知る。

【 3 】 「観光の目的について」

(8) 政府は、「家族旅行は家族の絆を深め、家族関係を安定させるとともに、日常とは異なる環境に触れたり、様々な体験を得ることで子供の多様な価値観を育成する」と考えています。

実際に家族旅行を経験することによって、子供の教育によい影響を与えますか。

【全員に質問（有効回答数：3,646人）】

(9) 国際連合は1967年を「国際観光年」と定め、「観光は平和へのパスポート（Tourism, Passport for Peace）」というスローガンのもと、国境を越えた観光が国際的な相互理解を深め、平和維持に貢献することを世界に強く訴えました。観光を通じてそれぞれの国の文化や習慣を理解するほど、紛争の一因ともなる無知や誤解を排除できるといわれています。

あなたは観光による国際交流が国家間の友好を深める要因になるとおもいますか

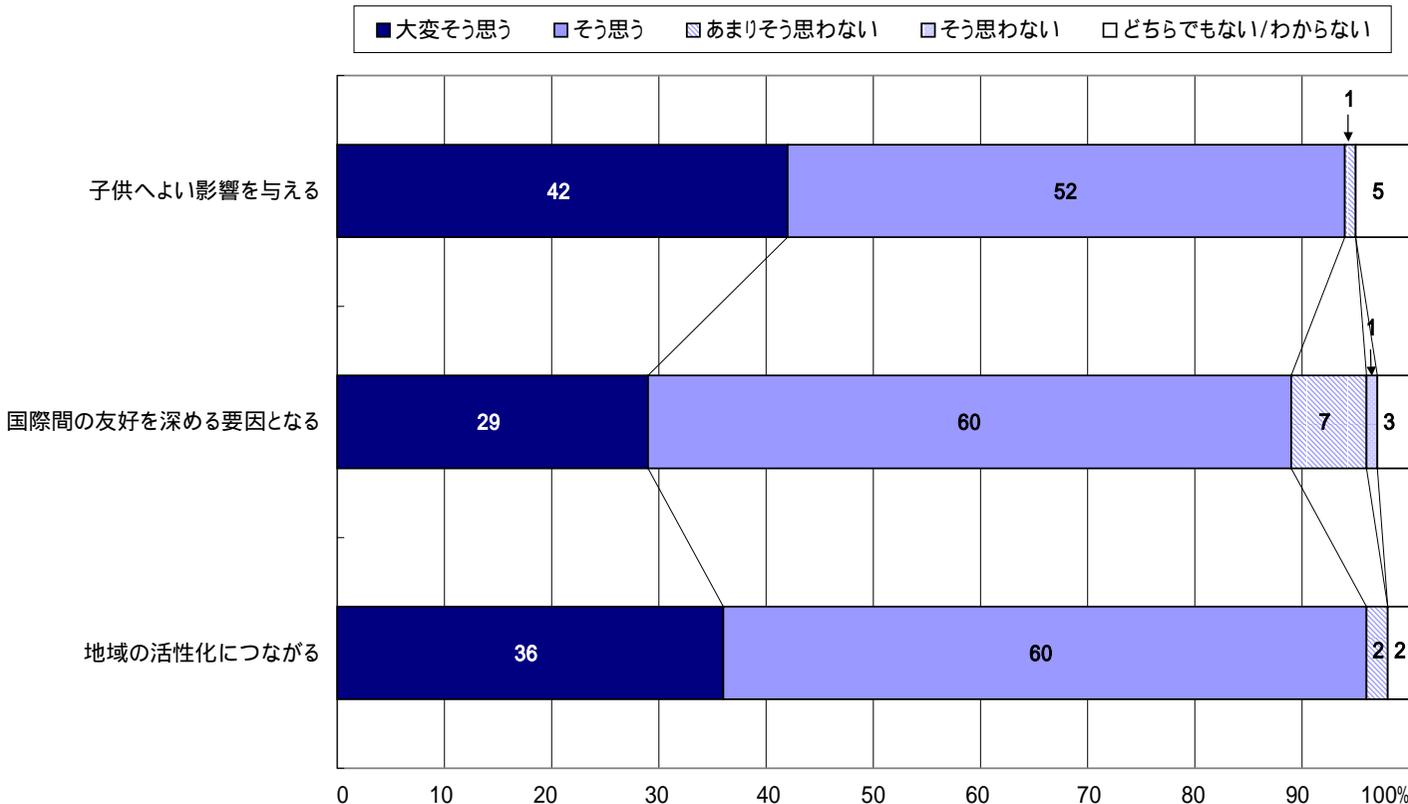
【全員に質問（有効回答数：3,648人）】

(10) 観光産業の推進が、地域の活性化につながるとおもいますか。

【全員に質問（有効回答数：3,638人）】

子供へのよい影響、国家間の友好を深める、地域の活性化

どの設問でも「大変そう思う」「そう思う」と回答した割合が高く、90%前後だった。



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 4 】 「観光立国を目指して」

(11) 「海外の観光客を日本に誘致する」ことに関連する質問をします。

国土交通省の統計結果によると2002年に海外に行った日本人旅行者は1652万人、世界で11位です。一方、同じ年に日本を訪れた外国人は524万人、世界で33位です。日本を訪れる外国人旅行者の数をどう思いますか。

【全員に質問（有効回答数：3,649人）】

<年代別>

思っていたより少ない 66%

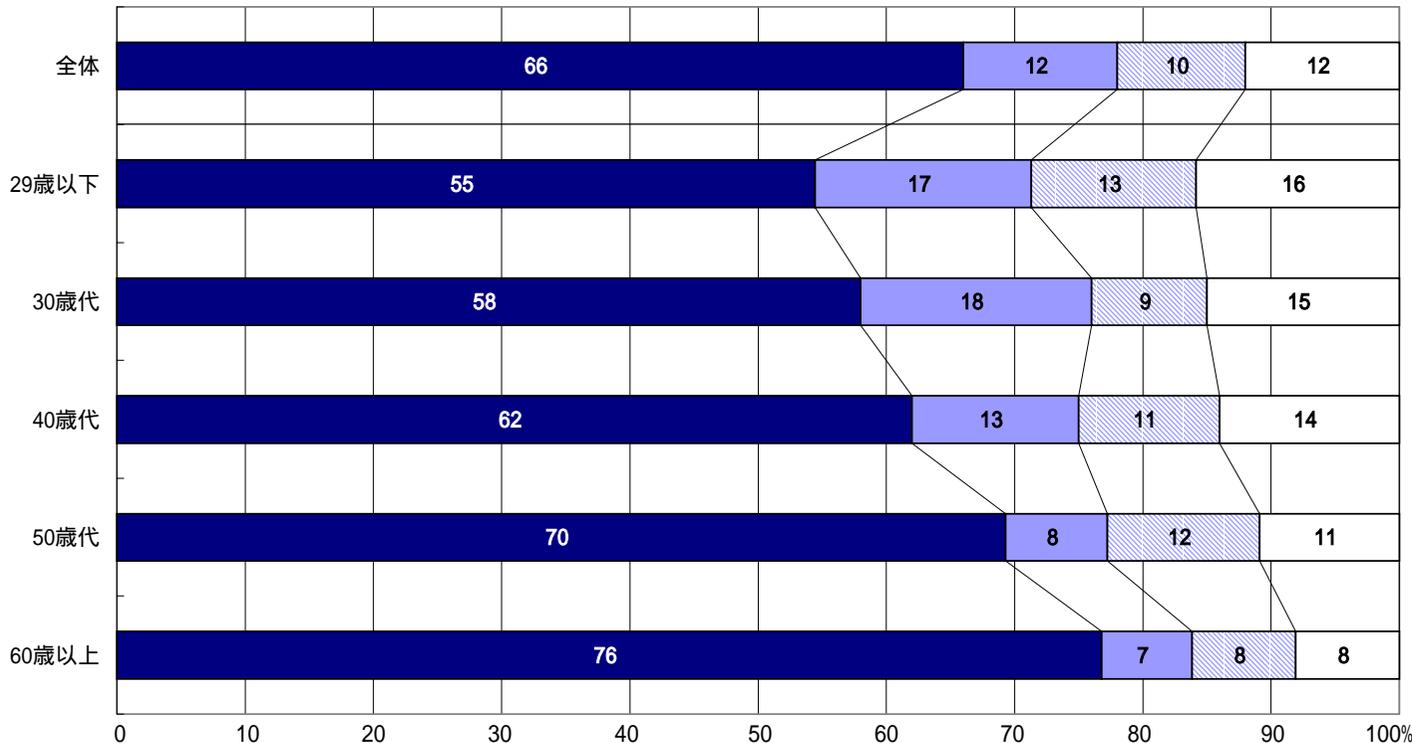
「思っていたより少ない」と回答した割合が高く、全体では66%だった。

年齢が高くなるに従い、「思っていたより少ない」と回答する割合が増え、60歳以上では76%だった。

29歳以下と30歳代は、「適当な人数である」と回答した割合が他の年代と比べ高い(それぞれ17%と18%)。

年代別

■ 思っていたより少ない □ 適当な人数である ▨ 思っていたより多い □ どちらともいえない/わからない



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 4 】 「観光立国を目指して」

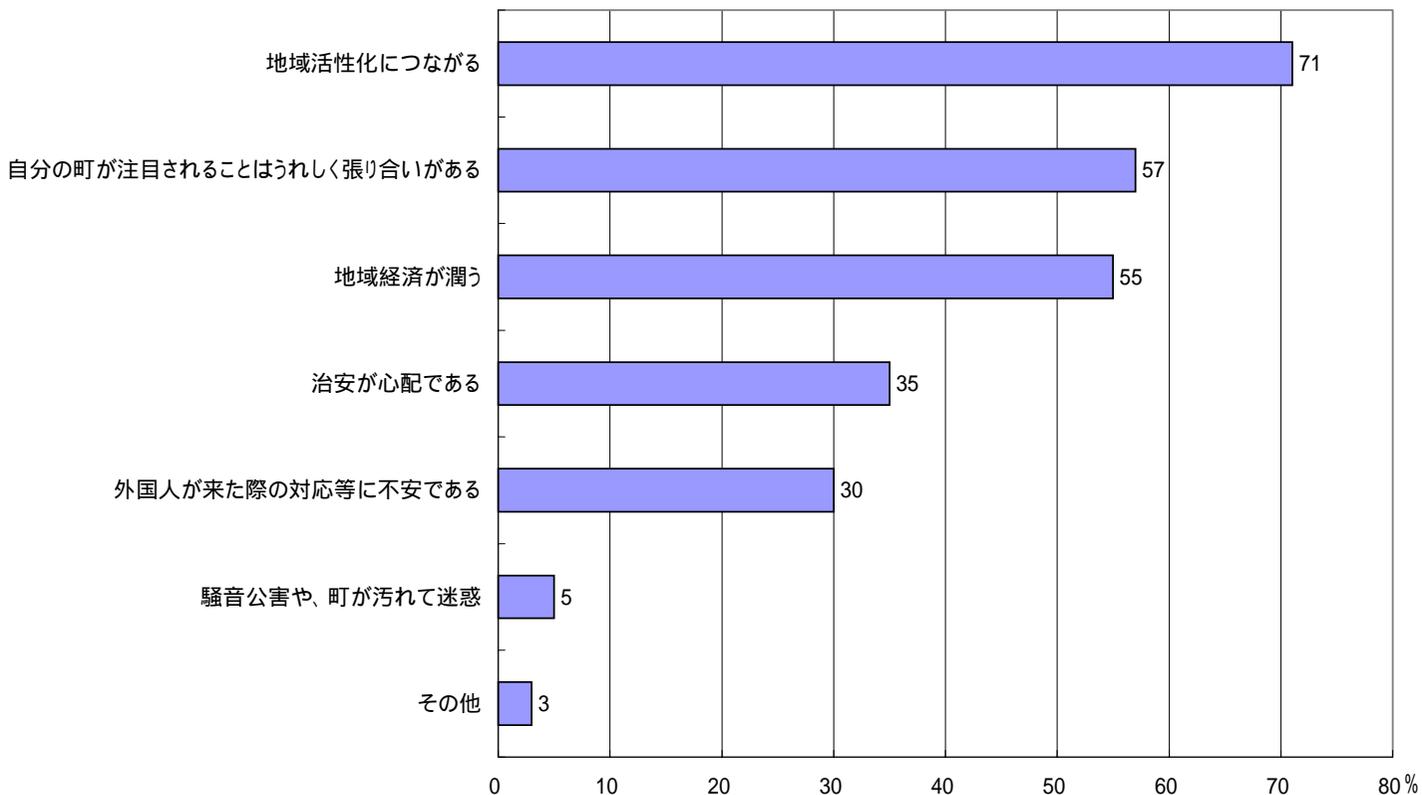
(12) 自分の住む町に外国人観光客がたくさん訪れることをどう思いますか。

【全員に質問（有効回答数：3,653人）】

地域活性化につながる 71% -

「地域活性化につながる」と回答した割合が71%と最も高かった。次いで、「自分の町が注目されることはうれしく張り合いがある」が57%、「地域経済が潤う」が55%だった。

「騒音公害や、町が汚れて迷惑」と回答した割合は低く5%だった。



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 4 】 「観光立国を目指して」

(12) 自分の住む町に外国人観光客がたくさん訪れることをどう思いますか。

その他(自由記述)

異文化を知る事ができる。

子供の教育に刺激になる。

子供にとって「世界」が身近になる。

日本にいながら外国人との交流ができ、刺激になる。

住む町はいわゆる観光地ではないので、実感がわかない。

「日本」を正しく知ってもらえて良いと思う。

大人も子供も国際感覚が身につく。

国際交流に役立つ。

第三者の目を大切にすることによって、住む町の見直しにつながる。

外国人観光客の訪問に対して、まだ環境が整備されていないので、恥ずかしい。

観光客が失望することが不安(見所がない)。

各国語での表示など受け入れ側の不備が心配。

満足してもらえる対応ができるのか。

満足してもらえない懸念が大きい。

地域の受け入れ態勢(言葉、治安)がしっかりしていないので、問題が起こる。

真の文化交流になるような地域的準備をしてほしい。

【 4 】 「観光立国を目指して」

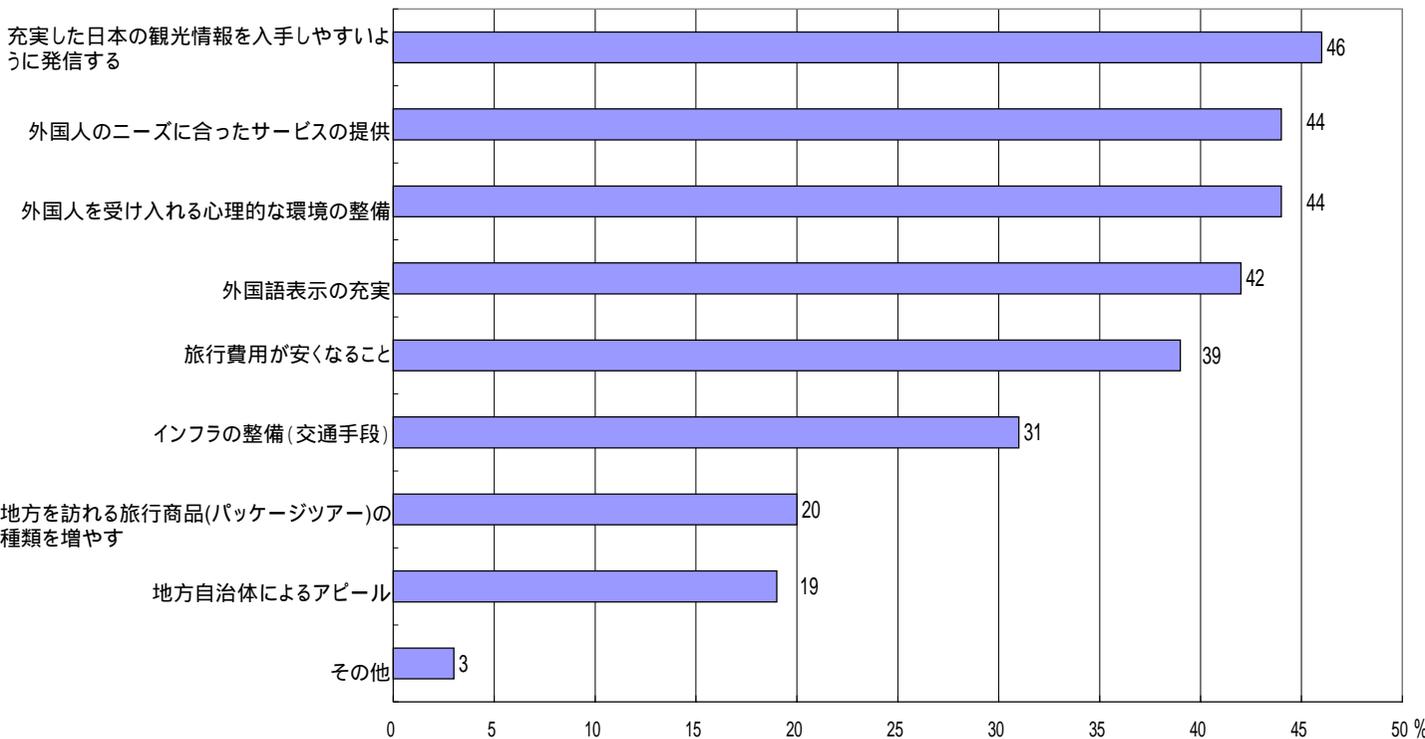
(13) 外国人が訪れる日本の都市ベスト3は 東京 大阪 京都です。
地方を含め、より多くの外国人観光客を誘致するために必要なことは何だと思いませんか。

【全員に質問（有効回答数：3,653人）】

情報発信やサービス提供、受け入れ態勢の整備が必要

「充実した日本の観光情報を入手しやすいように発信する」と回答した割合が最も高く46%だった。次いで、「外国人のニーズに合ったサービスの提供」(44%)、「外国人を受け入れる心理的な環境の整備」(44%)、「外国語表示の充実」(42%)、「旅行費用が安くなること」(39%)だった。

「地方を訪れる旅行商品の種類を増やす」や「地方自治体によるアピール」と回答した割合は他と比べ低く、それぞれ20%と19%だった。



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 4 】 「観光立国を目指して」

(13) 外国人が訪れる日本の都市ベスト3は 東京 大阪 京都です。
地方を含め、より多くの外国人観光客を誘致するために必要なことは
何だと思いますか。

その他(自由記述)

街並みなど観光資源の整備。

国が日本のよさ(四季や文化財)を積極的にPRすること。

入国ビザの免除国の拡大、入国制限の緩和。

地元を愛する気持ちを住民が持つ。

観光資源の再発見。

安価に滞在してもらえる拠点づくり。

道路標示を分かりやすくして車での観光客の便宜を図る。

自分たちにとって魅力的な町づくり。

自然を再生し魅力ある自然環境を整備し、自然の恵みを実感できること。日本の文化や歴史の魅力を実感できる環境整備。

日本文化のアピール、復活。

日本のオリジナリティを大切にする。

地域の文化遺産と文化を残していくこと。

個人やNPOなどによる観光情報の発信、地域文化の見直し。

文化・環境面で魅力ある国づくり。

外国人向けサービスを提供する民間施設の増加。

議員による誘致活動(視察も含む)ではなく民間によるPR活動(手段、方法はいくらでもある)が望ましい。

日本人の外国語教育。

【 4 】 「観光立国を目指して」

(14) 政府の「観光立国行動計画」と呼応するように、国土交通省でも世界に開かれた観光大国を目指し、2003年から訪日外国人旅行者の割合が多い東アジアやアメリカをターゲットにした「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の施策を実施しています。ビジット・ジャパン・キャンペーンを知っていますか。

【全員に質問（有効回答数：3,647人）】

<年代別>

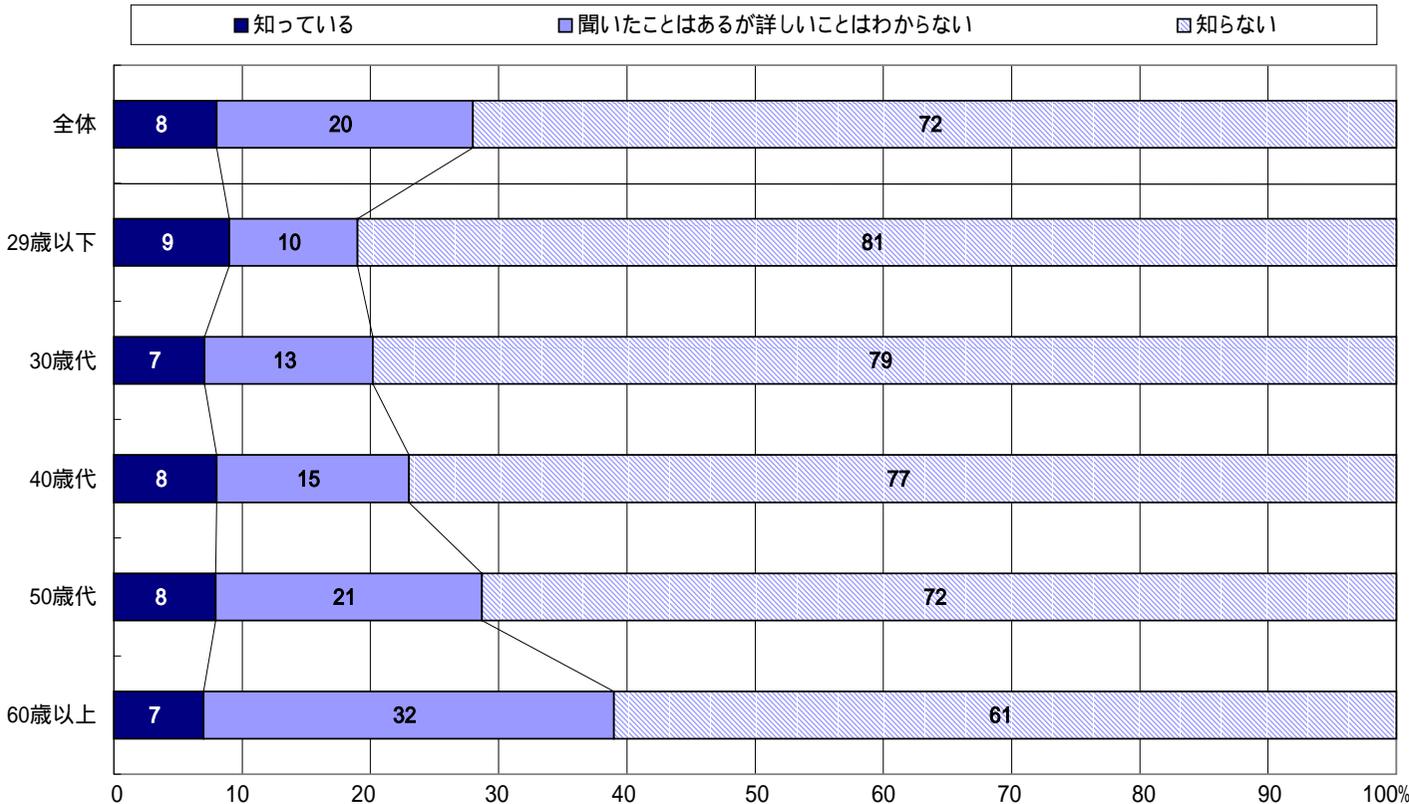
4分の3が知らない

全体の72%が「知らない」と回答していた。

「知っている」と回答した割合は、年代による違いがみられない。

「聞いたことはあるが詳しいことはわからない」は、年代が高くなるに従って、回答割合も高くなっている。

年代別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 4 】 「観光立国を目指して」

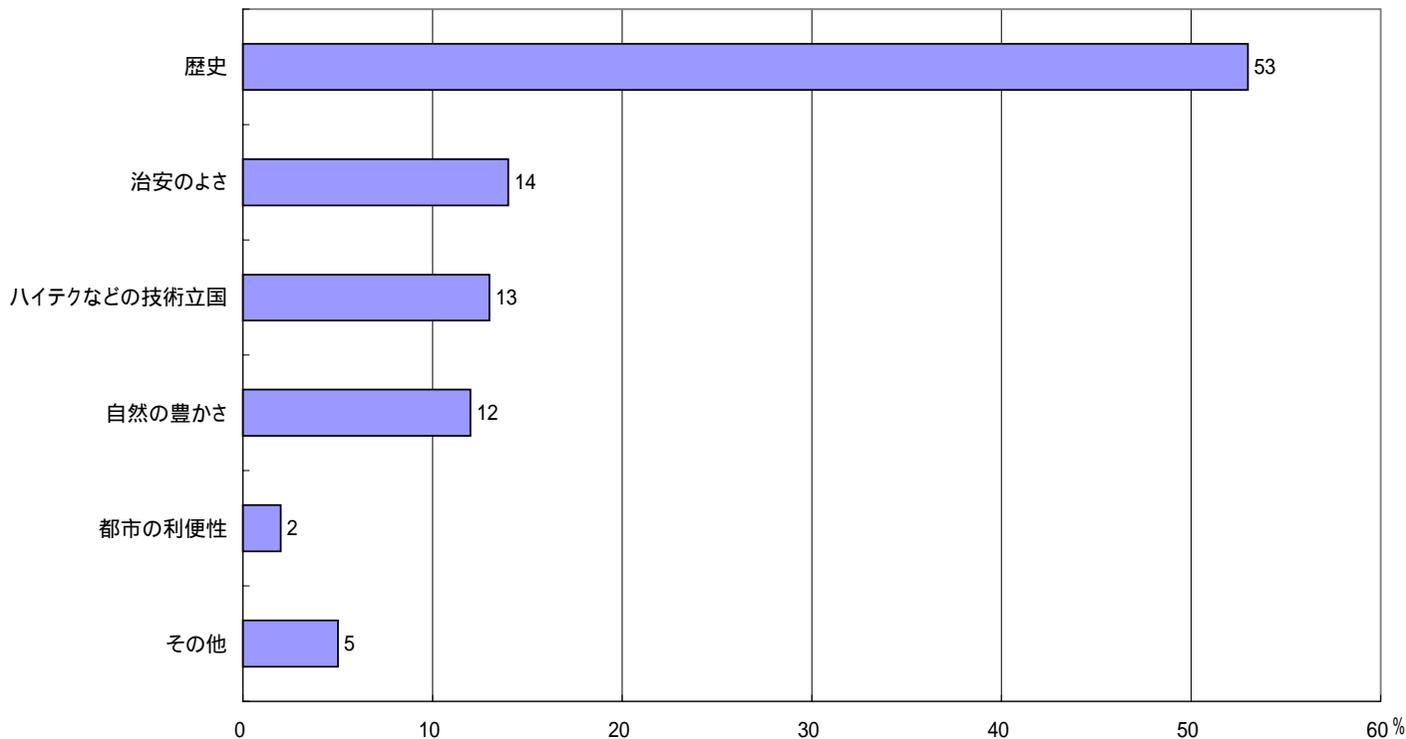
(15) 外国人が日本を訪れたいと感じる日本の魅力は何だと思いませんか。

【全員に質問（有効回答数：3,640人）】

歴史 が53%

「歴史」と回答した割合が最も高く53%だった。次いで、「治安のよさ」が14%、「ハイテクなどの技術立国」が13%、「自然の豊かさ」が12%だった。

「都市の利便性」は2%で他と比べ低い結果となった。



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 4 】 「観光立国を目指して」

(15) 外国人が日本を訪れたいと感じる日本の魅力は何だと思いますか。

【全員に質問（有効回答数：3,640人）】

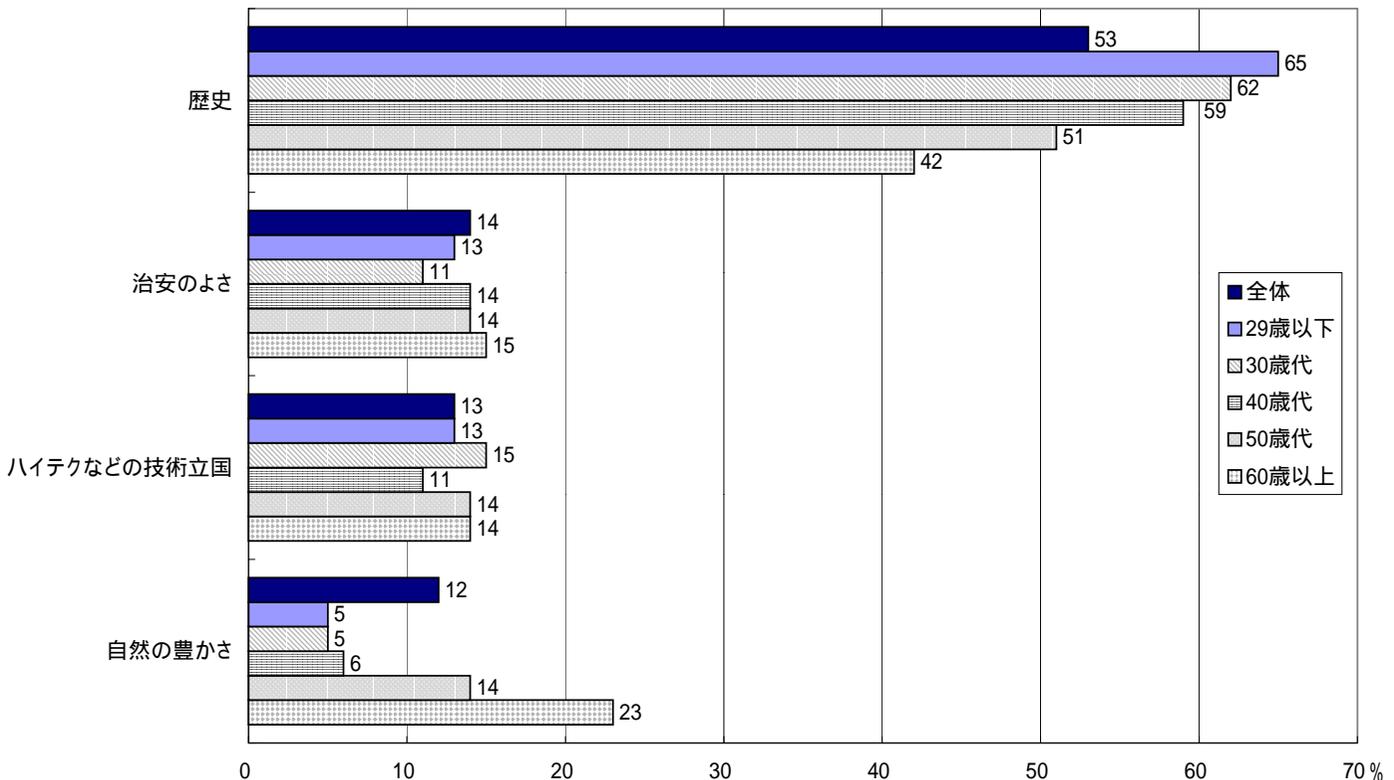
<年代別>

年代別では、年代が低くなるに従い「歴史」と回答した割合が高くなり、29歳以下では65%だった。

50歳代と60歳以上は、「自然の豊かさ」と回答した割合が他の年代より高く、それぞれ14%と23%だった。

60歳以上は、「治安のよさ」（15%）や「ハイテクなどの技術立国」（14%）よりも、「自然の豊かさ」（23%）と回答した割合が高い。

年代別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 4 】 「観光立国を目指して」

(15) 外国人が日本を訪れたいと感じる日本の魅力は何だと思えますか。

その他(自由記述)

日本文化の独自性。

日本固有の文化。

「歴史」と重複する部分もあるが、独自の「文化」が一番。

歴史を含む文化。

日本人の持つ文化・価値観。

高品質な電気製品などが安く購入できる。

オリエンタルなイメージと、世界第2位の経済大国であること(知名度)。

東京ディズニーランドなどのテーマパーク。

清潔さ。

古いものと新しいものの混在。

木造建築、日本食、四季の変化。

先進国としての地域整備。

神社・お寺などの建築の美しさ。

温泉、雪などの自然。

おいしい食事。

富士山、寺、庭園。

高技術な経済国であると同時に古風な歴史もちゃんと失わず備えていて、そのギャップに魅力があると思う。

文化(アニメなど)。

歴史・治安の良さ、ハイテク技術などの複合と思う。

【 4 】 「観光立国を目指して」

(16) 中国の8地域の観光客(北京市、上海市、広東省、天津市、江蘇省、浙江省、山東省、遼寧省)に対して利便性向上のため観光ビザの発給を解禁しました(2004年9月15日現在)。中国以外のアジア諸国についても観光ビザの発給を解禁したほうがよいと思いますか。

【全員に質問(有効回答数:3,649人)】

<年代別>

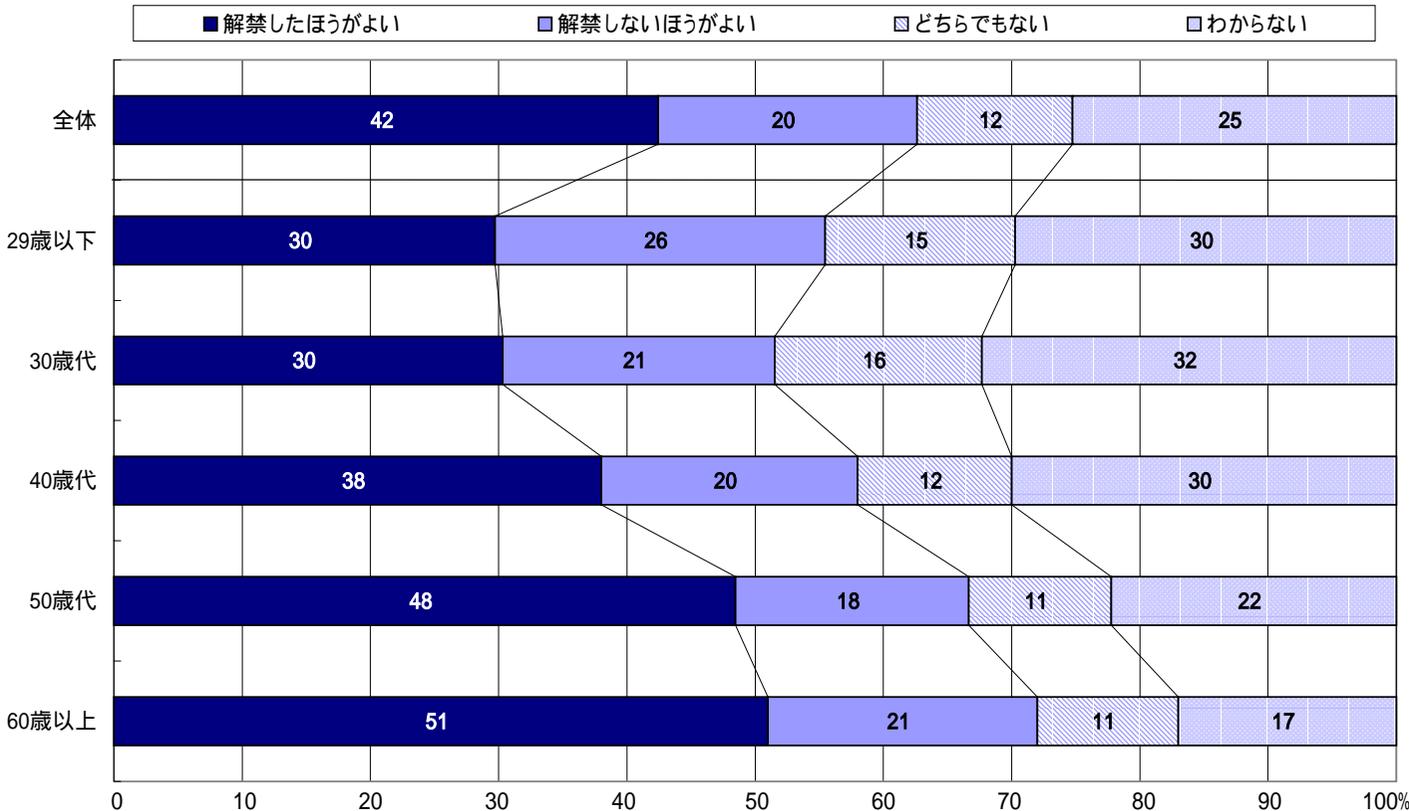
「解禁したほうがよい」が50歳以上で約半数に

全体では、「解禁したほうがよい」と回答した割合が42%だった。

「解禁したほうがよい」は、年代が高くなるに従い回答割合が高くなり、50歳代では48%、60歳以上では51%だった。

但し、49歳以下では「わからない」と回答した割合が高く、解禁について判断がついていないようだ。(29歳以下:30%、30歳代:32%、40歳代:30%)

年代別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

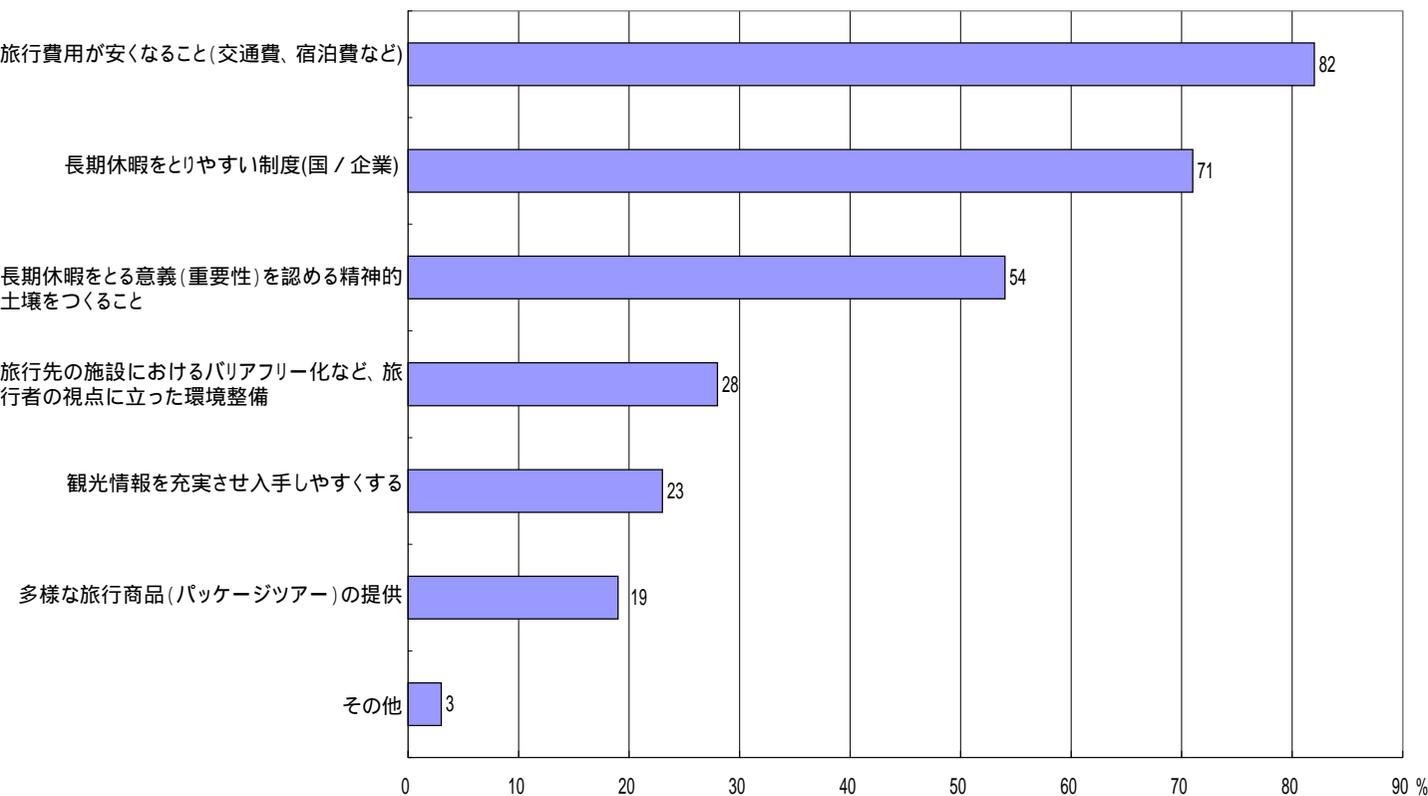
【 5 】 「観光の促進」

(17) 私たちが観光を行いやすくするのに有効と思われるものは何ですか。

【全員に質問（有効回答数：3,653人）】

旅行費用の低価格化、長期休暇制度の充実

観光に行きやすくするために、「旅行費用が安くなること」(82%)が最大のポイントとなっている。次いで、「長期休暇をとりやすい制度」(71%)、「長期休暇をとる意義を認める精神的土壌をつくること」(54%)の順となった。



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 5 】 「観光の促進」

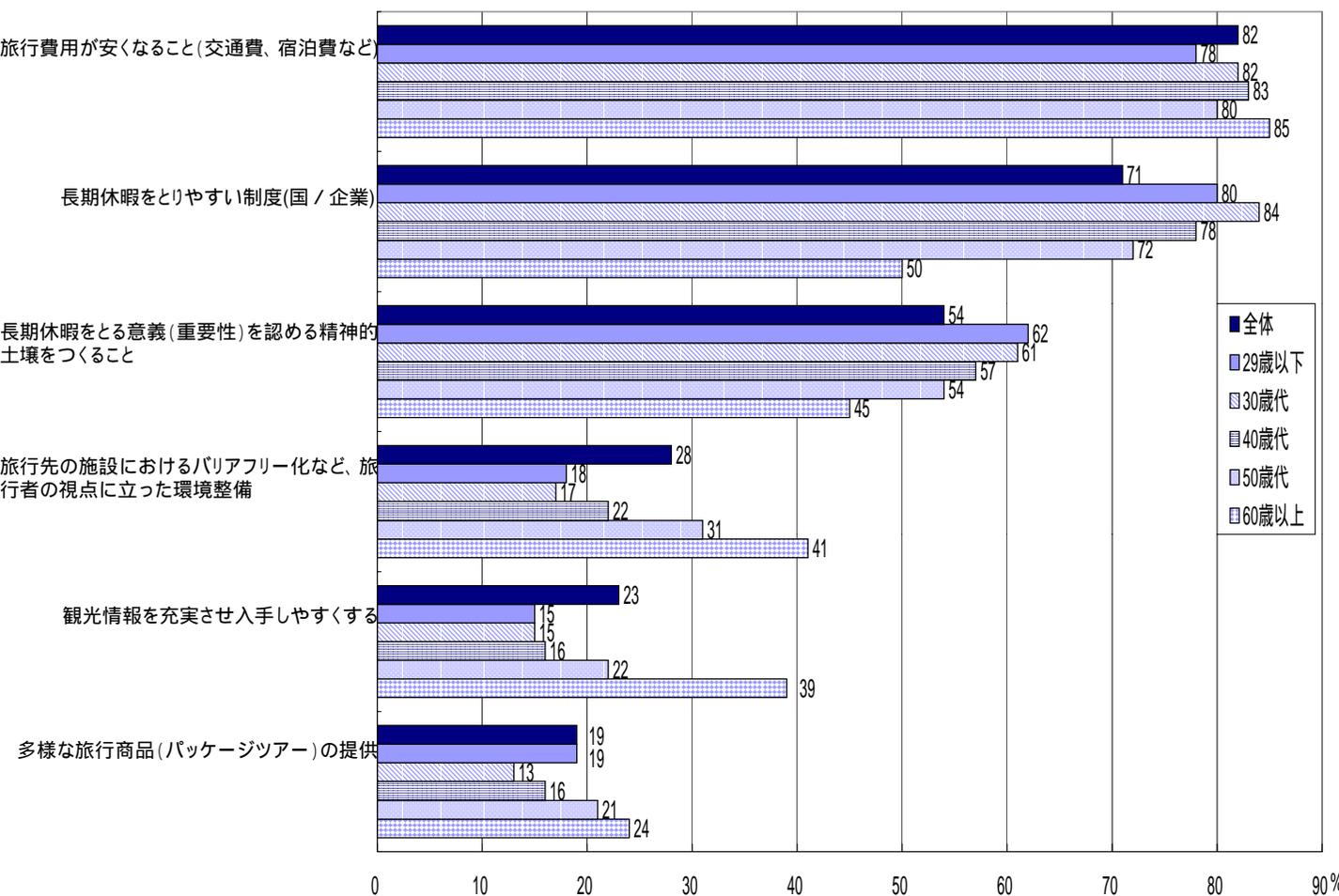
(17) 私たちが観光を行いやすくするのに有効と思われるものは何ですか。

【全員に質問（有効回答数：3,653人）】

<年代別>

年代別では、60歳以上が「旅行先の施設におけるバリアフリー化など、旅行者の視点に立った環境整備」と回答した割合が41%、「観光情報を充実させ入手しやすくする」の回答割合が39%で他の年代よりも高かった。

年代別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 5 】 「観光の促進」

(17) 私たちが観光を行いやすくするのに有効と思われるものは何ですか。

その他(自由記述)

社会全体のスローダウン化。

連休の時の特別料金の廃止と混雑緩和(休みの分散化)。

中央からだけの利便性(交通・価格共に)だけでなく、地方から出発(チャーター便)する便数を増やしてほしい。

個人所得の増加。

可処分所得の増加。

将来の金銭的不安がなくなり、心に余裕が生まれるような政策がとられる。

オンシーズンの混雑、交通渋滞の緩和。

遊戯施設、文化施設の入場料の格安化。

休みをとる時期の分散化の推進。トップシーズンにしか休めない業種なので、高くて旅行など行けない。

留守の間の介護サービスやペットの世話のサービスの充実。

個人旅行者を尊重してほしい。

企業、国民集中的長期休暇を改める。

景気の活性化。

【 5 】 「観光の促進」

(18) 2000年からハッピーマンデー制度が導入されました。(成人の日・1月第2月曜日、海の日・7月第3月曜日、敬老の日・9月第3月曜日、体育の日・10月第2月曜日)

この制度を観光の機会に利用しようとするようになりましたか。

【全員に質問(有効回答数:3,650人)】

<年代別>

「積極的に利用したい」は26%、29歳以下で40%

ハッピーマンデー制度を観光に「積極的に利用したいと考えるようになった」と回答した割合は26%にとどまり、「特に観光に利用しようとは思わない」と回答した割合(51%)の約半数であった。

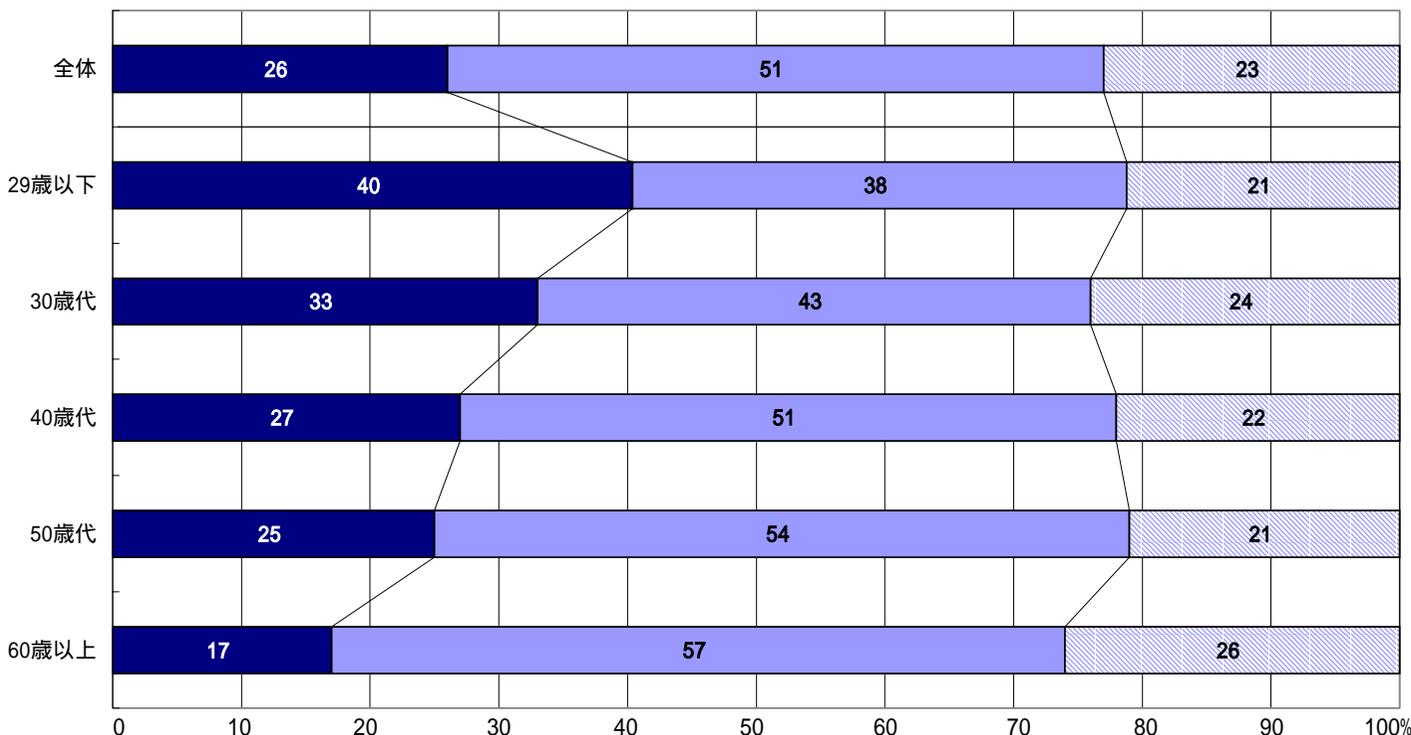
年代が低くなるに従い、「利用したい」と回答する割合が高くなり、29歳以下では40%だった。

年代別

■ 積極的に利用したいと考えるようになった

■ 特に観光に利用しようとは思わない

▨ どちらでもない/わからない



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 5 】 「観光の促進」

(18) 2000年からハッピーマンデー制度が導入されました。(成人の日・1月第2月曜日、海の日・7月第3月曜日、敬老の日・9月第3月曜日、体育の日・10月第2月曜日)

この制度を観光の機会に利用しようとするようになりましたか。

【全員に質問(有効回答数:3,650人)】

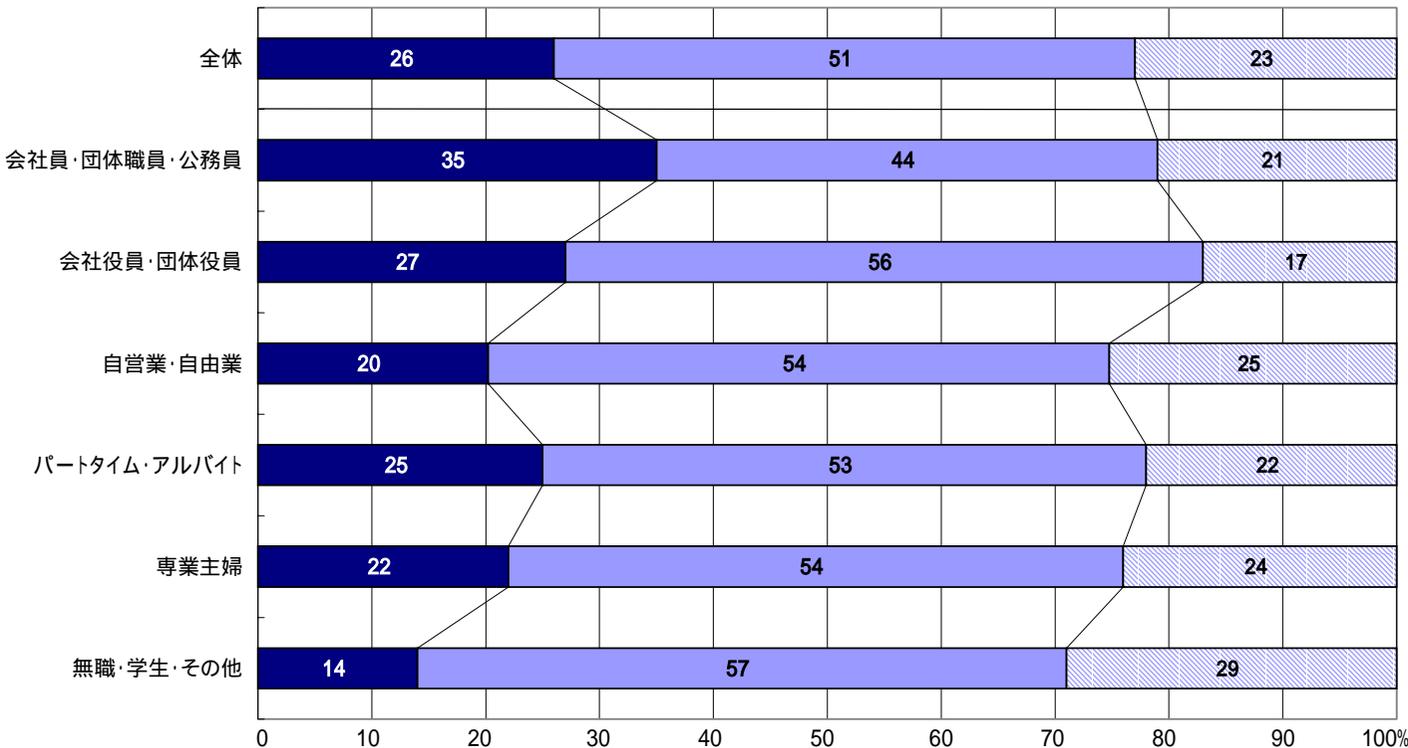
< 職業別 >

職業別では、「会社員・団体職員・公務員」が「積極的に利用したいと考えるようになった」と回答した割合が、他の職業と比べ高く、35%だった。

「会社員・団体職員・公務員」以外の職業において「特に観光に利用しようとは思わない」との回答が過半数となった。

職業別

■ 積極的に利用したいと考えるようになった ■ 特に観光に利用しようとは思わない □ どちらでもない/わからない



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 5 】 「観光の促進」

(19) ハッピーマンデー制度の拡大を望みますか。

【全員に質問（有効回答数：3,643人）】

< 年代別 >

年代が若いほど「一層増やして欲しい」

全体では、「現状でよい」が45%で回答割合が最も高く、次いで「一層増やして欲しい」と回答した割合が30%だった。

年代別では、年齢が低くなるに従って「一層増やして欲しい」と回答した割合が高くなっている。29歳以下では41%で、「現状でよい」を3ポイント上回っていた。

60歳以上は、過半数が「現状でよい」と考えている。

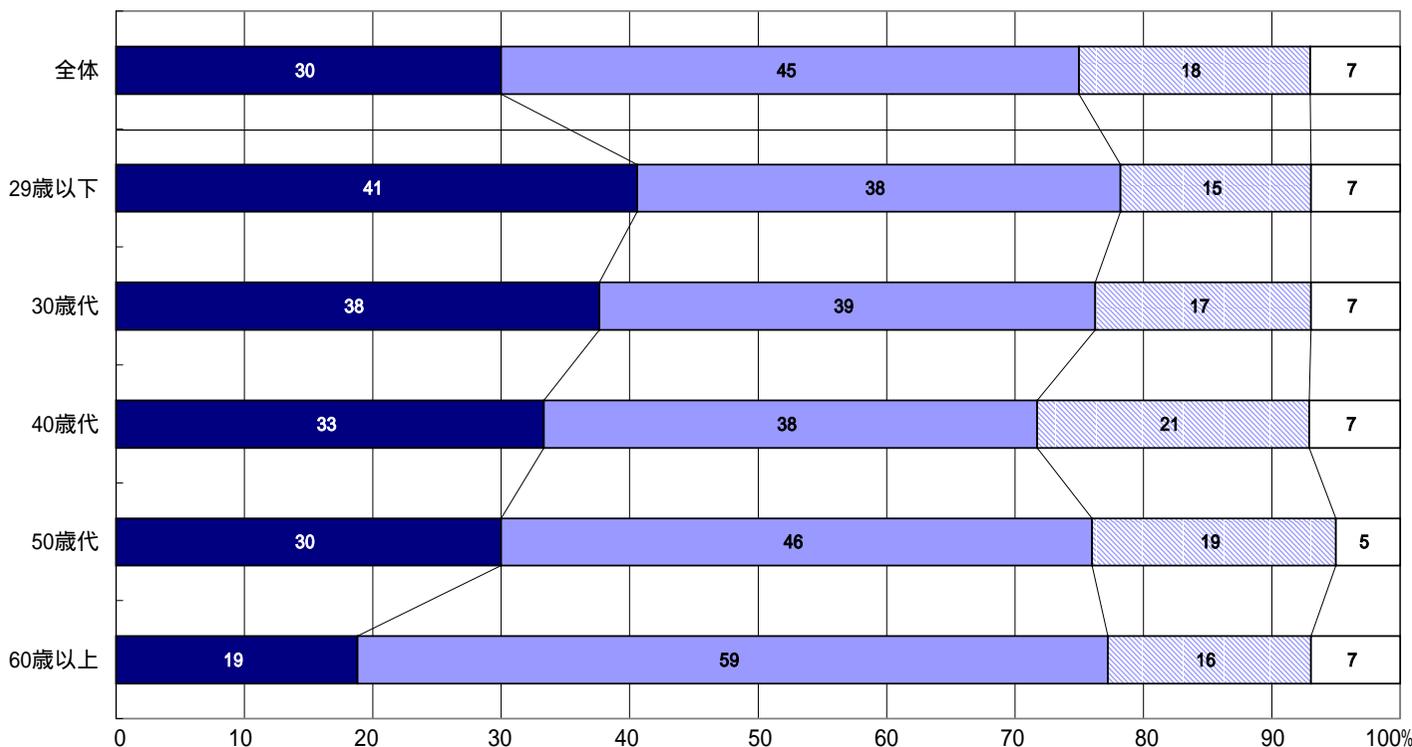
年代別

■ 一層増やして欲しい

■ 現状でよい

■ 多すぎると思う

□ わからない



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 5 】 「観光の促進」

(19) ハッピーマンデー制度の拡大を望みますか。

【全員に質問（有効回答数：3,643人）】

< 職業別 >

職業別では、「会社員・団体職員・公務員」が「一層増やして欲しい」と回答した割合が高く46%で、「現状でよい」(35%)を上回っていた。

「会社員・団体職員・公務員」以外の職業では、「現状でよい」の回答割合が「一層増やして欲しい」を上回っていた。

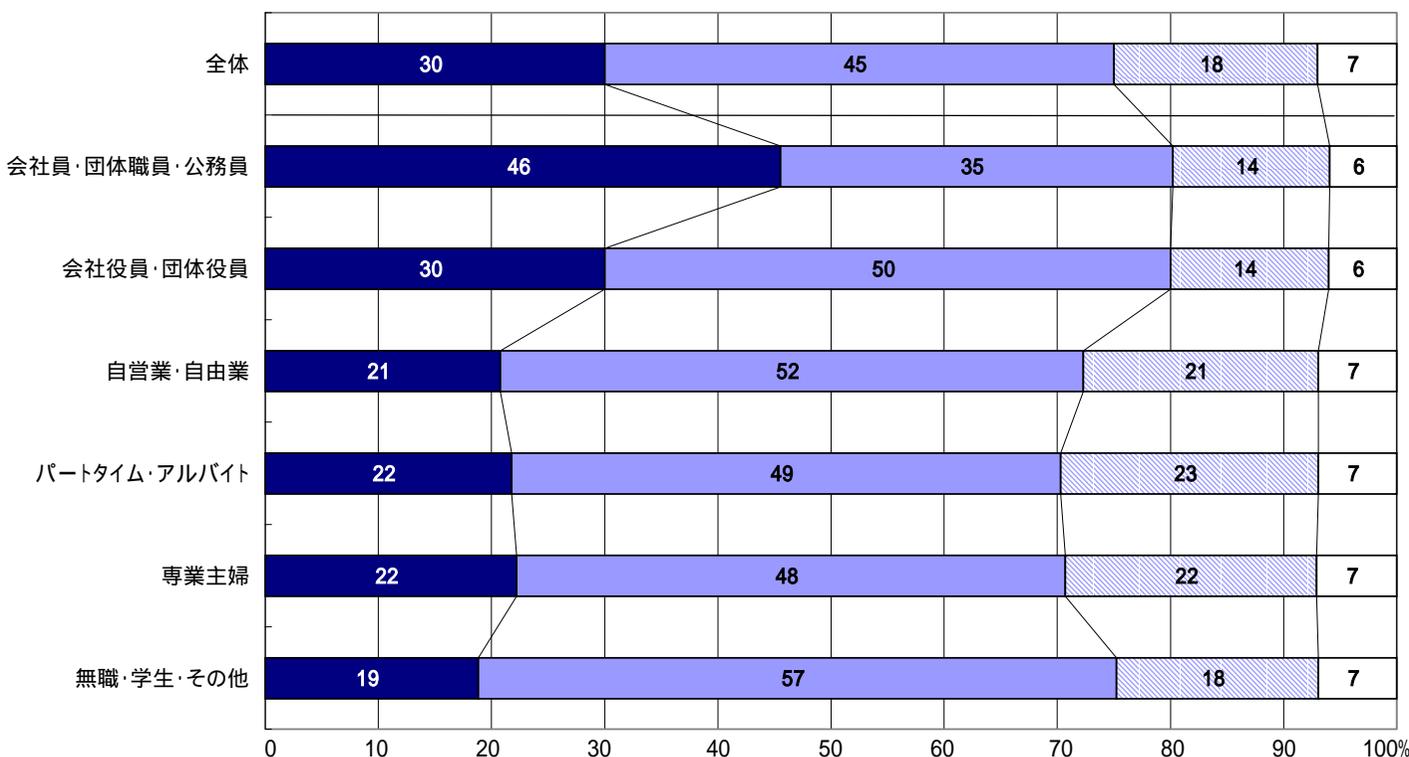
職業別

■ 一層増やして欲しい

□ 現状でよい

▨ 多すぎると思う

□ わからない



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 5 】 「観光の促進」

(20) 大規模リゾートに比べて環境に対する負荷が少なく、地域の自然環境や農業と結びついたグリーンツーリズム（自然・農林漁業体験観光）が近年注目を集めています。あなたはグリーンツーリズムに興味がありますか。

【全員に質問（有効回答数：3,618人）】

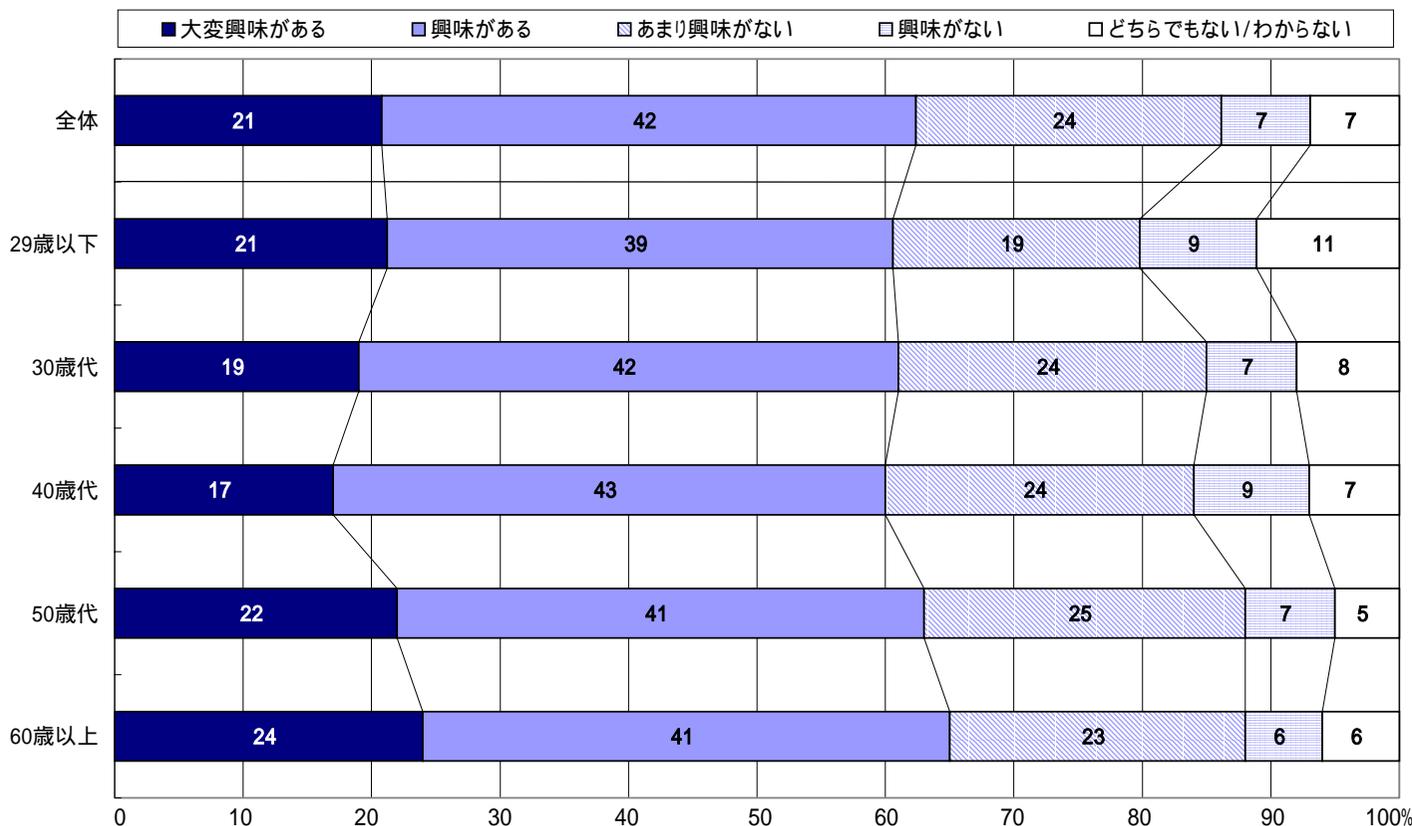
<年代別>

63%が興味がある

全体では、「大変興味がある」「興味がある」と回答した割合が63%だった。

「大変興味がある」「興味がある」との年代別回答は、各年代とも60%～65%で同様な結果であった。

年代別



* 小数点第1位四捨五入のため、合計が100%とならない場合もある

【 6 】 「自由記述」

観光に関する意見・感想 その1

「観光に関する」意見・感想を、自由記述方式で回答してもらった。その中から主なものを、以下に列記する。

29歳以下の意見・感想

ビジット・ジャパン・キャンペーンは、掛け声と広報だけが立派で、外国人に対応できる通訳ボランティアの育成など地道な施策に結びついていないように思う。国際観光振興機構の奮起を期待したい。

(1)子供にとって、いろいろな地方・国に行くことは、大人になってから行くよりも何倍も価値があると考えられるので、家族旅行は非常に有意義なものと思います。そのため、家族で旅行ができるように長期休暇(1週間以上)が取りやすい制度・環境が必要だと思います。(2)日本特有の自然や建築様式などのよさを生かすような都市計画や環境整備をし、外国人にもっとアピールする必要があると思います。

日本は神社仏閣や自然など、都市部以外に素晴らしい自然や歴史の観光財産を持っていると思いますが、そのアピールが弱いと思う。海外の旅行者に働きかけたり、海外においてホームページを充実させるなど一層の地道な広報活動の充実を図るべきだと考える。

日本に来たい外国人はたくさんいるのに訪れる人が少ないのは価格が高いためであると思う。ハッピーマンデーを利用している人(観光に)は、ほとんど私のまわりにはいないし逆に休日が月曜日ばかりになって嫌である。休みの日を元に戻してほしい。

祝日の時くらいしか休みが取れない社会人などの人たちのためにも、「ハッピーマンデー制度」はもっと拡大すべきだと思います。そうすることにより、観光をする人が増え、国際交流がよりしやすくなると思います。

海外旅行で異文化に触れることは、自分を見つめなおすのにとっても役立っています。もっと外国からの移民を受け入れ、多文化社会を形成し、柔軟な考え方を持てる国になればよいと思います。

30歳代の意見・感想

ハッピーマンデー制度によって連休は増えたが、観光に行くと、この時期は料金が高く、いつも週末などに有休を取って行っている。観光地はもっと特色を出して日常生活と違った世界を出してほしい。例えば温泉地は、景観を意識して、建物に統一感などを持たせて、知己で方向性を合わせて特色を出していかなければならないと考える。

旅行は、その土地の歴史や生活習慣などを肌で体験できる貴重な経験手段だと思います。観光する側も観光客を迎える側も、マナーを守りお互いに気持ちよくいられるよう、国、自治体、旅行会社がマナーについてPR活動をしていくべきだと思います。

若年層の体験型の充実を望む。

国内の観光に関しては、施設や土産物など画一化されているようで、魅力が持てない。わが国の観光を進めるには、リゾート 開発といった路線を見直し、街並み保存や、伝統産業の育成に力を入れる方向に視点を変えるべきと思う。その点、グリーンツーリズム、エコツーリズムなどは面白いと思う。自身の観光状況から言うと、まず長期休暇が一番希望とするところである。ハッピーマンデーもいい点はあるので進めてほしい(近隣レジャーなど)が、旅行が集中すると代金がアップするので、平日に休暇が取れる体制こそが必要と思う。

観光客の多くは、旅先が魅力的な場所であれば、多少お金をはたいて出かけるもの。日本全国どこでも整備してほしい施設や制度、サービスもあれば、そうでないものもあります。何も無いから人気のある観光地もあります。当たり前なことなのですが、制度や施設、観光商品を整備・開発される方に時々思い出していただきたいことです。

日本の大学で観光学科を設置している所が少ないので、もっと増やすと観光産業の活発な国になると思う。学問としても魅力的な分野だと思う。

観光に関する意見・感想 その2

40歳代の意見・感想

小さい頃から旅行を通じて様々なことを学んできた。子どもにも計画を立てること、知らないものを見ること、様々な人に会うこと、リスクを管理することなど、多くを経験してほしい。そのような機会を得るために、休みの取りやすさと費用負担の軽減が伴うと助かる。日本の誇りである京都は自覚をもって、“大内宿”(福島県)などのあり方に学んでほしいと思う。

祝日は分散されていた方が出発日が集中して混雑することがなく、合理的。従って、ハッピーマンデーは従来通り固定休日に戻し、飛び石状態の休暇にした方がよい。

自然・環境保護に対し、もっと自治体などで配慮が必要と考える。どうしても利潤追求型になりやすく環境維持が軽んじられる傾向にある。破壊された環境は、すぐには復活できない。

最近、広がりつつある体験観光(農産物の収穫や、牧畜、漁業など)は、子供の教育にとってもとても意味のあるものだと思います。また、昔ながらの民家を何日間か借りて、田舎暮らしを体験するなどというものも、興味をひきました。観光という枠にとらわれない多様な余暇の過ごし方ができるようになっていけば良いと思います。

日本人の観光をもっと多くするには、ひとえに長期休暇の取りやすい制度と、実際に取れるかにあると思う。

日本国内にはその地域にそれぞれの名物・特産品・出身者などが生まれた必然性がいつの時代にもあり、そんな歴史ロマンを感じられる地元民とのふれあいができる、地域発の情報発信地的なスペースをボランティアなどを活用し、年配者の余暇などを活用した組織を創造できればと常々思っています。

海外の観光客を誘致するために必要な要因のひとつとして、心が安らげるような風景を保つこと、つくることだと思う。色彩が統一せず看板ばかりが目立つ街並みに魅力を感じないことは当然である。

50歳代の意見・感想

個人的な経験ではあるが、外国に比べると日本の接客は、マニュアル化されている感はあるが、親切で礼儀正しく感じが良いと思うことが多い。観光客を大切に扱うような風土を無くさないようにしていくことで、海外からの観光客のリピーターが増えるのではないかとと思う。

観光と身構えるより、現在滞在する外国人の不便や不満などに耳を傾け、普通の生活の中に外国人を受け入れる土壌づくりをすることが先決。それがひいては観光立国への近道と思う。

以前に比べ、休暇のとり方、使い方など多様化しておしきせの観光以外の体験が求められている。ハッピーマンデーもいいが、それぞれが自由に休める体制が整うと良いと思う。

グリーンツーリズムは1度しかない人生を2度3度生きたような気持ちになれる。

グリーンツーリズムに関して最近テレビなどで放送され興味があります。10年以上前から長野県の「りんごオーナー」制度を利用して、りんごの収穫の時に長野を訪れます。子供たちが小さい時から一緒に行っていますが、家族そろってひとつの目的を持って行動するのは大変良いと思います。地域が活性化され、経済的にも潤うもので、単なる旅行者(お客さん)だけでは、グリーンツーリズムは育たないと思う。

海外の観光客を日本に誘致するという活動は、経済活性化のためにも非常に良い施策とは思いますが、外国人の不法滞在、犯罪の増加など、最近の地安悪化も大きな問題です。出入国の際の身元確認などの強化もある程度は必要と思います。

子供の健全な成長のためはもとより、大人にとっても戸外に出て日常と異なる体験と、自然・他人に触れることは人間を大きくさせる。それには多少の金銭的余裕とその意義を認める意識改革が必要。

自然の保護、景観の保全、文化・芸術の伝承など日本らしさを守って行く施策が観光を支えると考えています。

観光立国のためには外国人が入国しやすく、来やすい環境整備が必要。国内の物価高も一因であるが、日本人そのものの意識を変えないと難しい側面もあり、「ホスピタリティ精神」の重要性を若者に教える必要がある。

観光に関する意見・感想 その3

60歳以上の意見・感想

「海外の観光客を日本に誘致する」ための努力をもっと長期的、計画的に実行し、毎年実際の数値なども公表したらどうか。また「観光立国行動計画」で提案している ~ の施策の進捗状況を数値化して公表してほしい。

特に外国人観光客を誘致するため交通手段・宿泊施設などインフラの整備、都市の美観の保持、大々的なキャンペーンなどを国を挙げて実施する必要がある。

日本の温泉地ははまだ団体やグループで利用する風潮が高い。個人でも気楽に泊まれるPRを積極的に行っていただきたい。また旅館側もそれを受け入れてほしい。

日本への観光は年配者は自然に関心、興味を持つが若い人は日本のIT関係の技術に興味を持ち、その製品の購入が目的と思われる。従ってツアー目的に多様な観光メニューをつくってみたいかが(工場見学などを入れる)。

入国後の不法在留を防ぐためにも観光ビザの発給を解禁することには賛成できない。中国8地域からの観光客に対しても出入国の際の審査を厳格に行う必要がある(治安対策上不法在留防止のため)。

日本の文化遺産を大切に維持するのはもちろん大切だが、(スイスの街のように)住民が自分の郷土を愛し、大切にすることがより重要である。これがおのずと外国人もひきつける魅力につながると思う。

どこへ行っても同じような観光地が多い。その地域の独自性を出した方がいい。地元の人と触れ合うような旅がいいですね。

外国からの観光客の方々に、私たちの日常生活に触れていただくのが一番良い国際交流・観光になると考えます。

豊かな水や緑そして温泉のある日本が、世界中の人たちの癒しの場になればいい。そのためにも美しい心を持ちたい。

観光を主目的としないで、国際会議や国際交流会、技術公開見学会など業界内の海外連絡を含めた門戸の開放を大企業が活発に行い、開かれた日本にするのもひとつの観点です。

日本にははまだ勤勉さ偏重的考えが強い。観光＝遊びは必ずしも好ましくないという価値観が社会の多くの人の心にある。これを打ち破り、勤勉とリフレッシュ・観光・スポーツなど同時に同一基準で評価される風潮をさらに作る必要あり。観光産業の社会的評価を高めていく必要がある。関係者も他も共に。

有給休暇があっても、利用できる人は限られている社会だと思う。だから有職者たちは、宿泊旅行をするためには、ハッピーマンデーやゴールデンウィークなどを利用するしかないだろうと思う。私たちのようなリタイア人間は、自分たちのためにも、また若い人たちのためにも、でき得る限り混雑を避けて外出するよう心がけている。

観光の魅力は豊かな自然とのふれあいとそこにいる人間との温かい交流および歴史文化だと考えております。観光立国は上記の環境を整備し日本人自らがそのことを誇りに思い、大切にすする心の養成が必要。日本国、そしてそれぞれの地域の特性を伝えた「まち」づくりの必要を考えております。

観光にかかわる産業分野は運輸・旅館・飲食・ショッピングなど幅広く、観光需要の経済波及効果は新たな雇用をも創出する。地域の伝統芸能・文化遺産を活用し環境を整備して、魅力ある地域観光の振興・推進がさらに必要である。また国際的大交流時から外国人の訪日を勧誘、観光を通じて相互理解・友好を深めて、平和維持への貢献が求められる。

観光は非日常生活の体験であり、生きることの喜びでもあり、積極的であるべきだ。そのためには日常生活の不安なきことが前提。興味、関心、意欲、冒険、喜び、見ること、交流すること、買うことなど自己の欲するままに過ごせるその配慮が肝要である。

地域活性化のためにも、受け入れ基盤(インフラ)整備が不可欠である。観光産業の振興のため、もっとPR活動が必要と思う。

観光に関するアンケート 結果報告書

発行 / 2004年11月

財団法人経済広報センター

国内広報部 広聴グループ(佐藤智徳)

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル 7階

TEL:03-3201-1412 FAX:03-3201-1404

E-mail:kochonet@kkc.or.jp